



医療法人 **セント・ルカ**

セント・ルカ産婦人科

セント・ルカ生殖医療研究所

目次

巻頭言	1
一年を振り返って	
心理専門相談室	3
看護部	5
研究室・検査室	7
事務部	9
情報処理室	11
診療統計	
外来・入院数	13
妊娠数	15
外来患者及び妊娠結果の内訳	17
初診後妊娠までの期間（グラフ）	19
腹腔鏡検査後妊娠までの期間（グラフ）	19
AIH（人工授精）による妊娠（グラフ）	20
ART（体外受精）による妊娠（グラフ）	20
ARTによる妊娠	21
ARTによる出産および出生児の状況	22
異常児の詳細	22
セント・ルカ産婦人科 1年のあゆみ	
行事一覧	24
論文一覧	36
著書（共著）一覧	37
院内活動	
セント・ルカ産婦人科主催講演および活動説明	38
スタッフ配置	42
病院概要	43

巻頭言

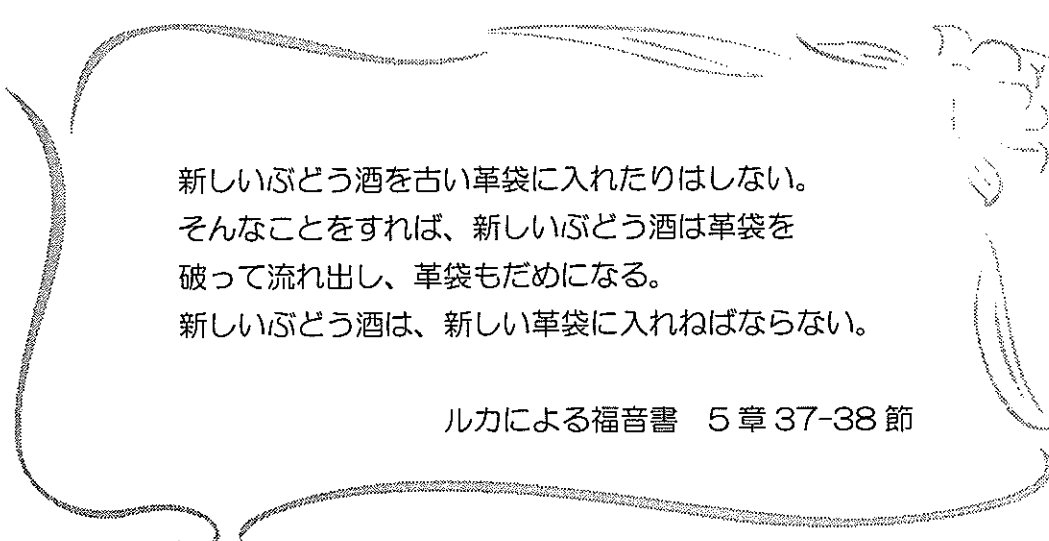
宇津宮 隆史

最近、国際学会に参加してもそれほどインパクトの強い演題に出会うことなく、また参加する日本人も少なくなってきたように思う。それは、日本での ART に関する知識や技術が世界的レベルに達したからと思う。実に凍結技術は今では vitrification が最良の方法であることは異論がないと思うが、それはいまだ、日本の独壇場といってよい。いまさら海外で何か得るものはあるだろうかといった雰囲気がある。それならむしろ日本から海外に向けて発信することを考えねばならない。それはひとり生殖医療を狭い医療の枠内にとどめるのではなく、この分野は他の分野に比べ、多くの異なった知識や技術、考え方、哲学に基づいたチーム・ワークで成り立つという理念に立ち返ることであろう。生殖医療は産婦人科の生殖医療分野に加え、泌尿器科医、テクニシャンを中心にした胚培養士、臨床研究・実験に基づく先端技術を編み出すラボ・スタッフ、心理的側面をサポートする臨床心理士によるカウンセリング、患者の日常場面からサポートを行うナース・受付部門、診療・研究成績・患者からの直接的な情報を分析する情報処理、最新技術の臨床応用に際してその倫理性を評価する部外者による倫理委員会、さらには産婦人科部門以外との連携など、数多くの部門から成り立っているのが ART の世界であろう。これほど数多くさまざまな方々と診療を請け負い、分担し合う領域も少なからうと思う。幸いにも日本は古来から受け継がれてきた美点として「和」がある。各分野が独自の権利と主張をわれ先に主張するのではなく、全体としてのハーモニーを常に考慮しつつ、チーム・ワーク内の一員としての自覚の下にわが責任を全うする、日本ではこのような環境雰囲気を利点として持つ。

3 年前から力を入れてきた生殖医療心理カウンセリング学会も今年は私が会長を仰せつかり、学術集会を開催した。さらに平山史朗先生を中心に昨年「生殖心理カウンセラー」の養成を行い、10 人のカウンセラーが生まれ、その第 1 号には当院の上野桂子先生が認定された。欧米では一足早くから活動しており、世界生殖医療カウンセリング協会 (IICO) も 2004 年に設立されたが、昨年のもントリオールでの会合でこの日本の取り組みを発表すると全員が感心していた。すでに欧米を抜いたのである。将来は各地区にこの専門の生殖心理カウンセラーが存在し、ナースやラボ・スタッフなどを指導し、最終的には専門カウンセリングを行うという理想的な形態を取れるようになったということである。

また、私が支部長を仰せつかっている A-PART (The International Association of Private Assisted Reproductive Technology Clinics and Laboratories) 日本支部が中心になって、かねてより日本造血細胞移植学会と日本がん治療学会から申し入れのあった、白血病患者さんの治療前の未受精卵の凍結・保存を行うことになった。これには、未婚女性であること、未受精卵であること、ハイ・リスクであること、がん治療医と生殖医療医との密な連携が必要であること、おそらく 10~20 年という長い期間にわたるであろうこと、細やかなカウンセリングが要求されるであろうこと、等など、解決すべき問題は多岐にわたるであろう。すでに日本産婦人科学会倫理委員会に申請し、一部文書の訂正を行えばよいことになった。この試みももし軌道に乗れば日本から世界に向けて発信できる成果といえよう。

これらのようにこの世界はいかに広範囲の力を結集できるかが問われる分野といえ、今までにないやりがいのある仕事である。われわれの生殖医療分野は狭い範囲に陥りがちであったが、今後は各方面との連携により新しい分野を開拓すべき時期に来ていると思う。



新しいぶどう酒を古い革袋に入れたりもしない。
そんなことをすれば、新しいぶどう酒は革袋を
破って流れ出し、革袋もだめになる。
新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れねばならない。

ルカによる福音書 5章 37-38 節

一年を振り返って

心理専門相談室

当心理相談室が発足してから2006年3月末で5年になりました。

この5年を振り返りますと、生殖医療における心理的なサポートの重要性に対する認識が広まり、学会でもその方面に関する発表やシンポジウムが珍しくなくなってきたことは大きな変化だと感じています。

日本生殖医療心理カウンセリング研究会も今年から日本生殖医療心理カウンセリング学会となり、2006年3月には当院の宇津宮隆史院長を大会長として第3回学術集會が開催されました。今年は参加者も約300名に達する大きなものとなり、この分野での関心の高さが窺われました。この学術集會では、跡見学園女子大学教授の平木典子先生、恵泉女学園大学大学院教授の大日向雅美先生が、心理学から見た“不妊”についての講演をしてくださいました。

ポスター発表では、当院の看護部と心理相談室から4題発表し、その中で「40歳以上の不妊症患者を対象としたサポート・グループの取り組み」と題した発表が優秀ポスター賞をいただきました。

また、院長先生を座長とした「自己決定におけるコーディネーティングからカウンセリングへ～医師、看護師、心理士の立場から～」と題するパネル・ディスカッションでは、各職種の専門性を生かしたサポートのあり方を討議しました。私も現場で働く心理士として当院での取り組みについてお話させていただきました。患者、産婦人科医、泌尿器科医、看護師、心理士、胚培養士、情報処理担当者が協力し、チームとして生殖医療に取り組むことが重要であるとの院長先生のメッセージが心に残る大会となりました。

そしてこの学術集會の最後に、一年間の養成講座研修を終えた10名が学会から生殖心理カウンセラーとして初めて認定を受けました。この分野の心理カウンセラーの資格が確立したことは喜ばしいことと思います。うれしいことに私も学会認定を受けた一人として登録することができました。

当院の心理相談室が活動を始めてからの5年間は、奇しくも日本の生殖医療現場でのカウンセリングが確立された軌跡と重なっているようにも思われます。それだけ早く院長先生が心理カウンセリングの必要性に目を向けられ、各方面に発信してくださったことの表れであると再認識し、身の引きしめる思いを新たにしている次第です。

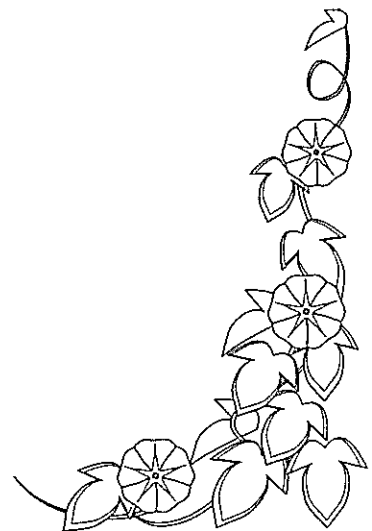
不妊治療においては、始めるまでも、始めてからも、止めるときも、患者さんの心は先の見えない不安、いろいろな苦痛や悩みで惑わされ、自己コントロール力を保つのが難しい状況になりやすいものです。そもそも「子どもが欲しい」という気持ちから出発する治療ですから、心身両面が切り離すことのできない治療と言えるでしょう。いろいろな価値観が認められ、それぞれが自己の生き方を選択できる時代となっても、子どものいない夫婦は少数派として孤立感を感じたり、少子化の風潮による周りからのプレッ

シャーを感じたり、一人前でないという自分自身の思いに苦しめられたり・・・と不妊による悩みも多岐に渡っていることも分かってきました。

患者さんのサポートには、情報的なサポートと情緒的なサポートの両面が必要となってきます。医療者からの正確な情報伝達はもちろんのこと、患者さん同士の情報交換や仲間意識の効果も大変大きいことも当院の取り組みでも明らかになってきました。これからも、個別相談と患者さん同士のグループの両方を通して患者サポートに勤めたいと思います。

患者さんが少しでも安心して治療を受けていただくことができますよう、そしてこの治療が夫婦の絆をより強く結びなおす機会となりますよう、子どもがいても、いなくても続く人生を考える場として、今後も患者さんの心に寄り添う相談室でありたいと思っています。今後ともどうぞよろしく申し上げます。

心理専門相談室 上野 桂子



一年を振り返って

看護部

知人から、朝とれたばかりの夏野菜を頂きました。朝露が光って少しひんやりとしたトマトにキュウリ、なす、いんげん豆です。それぞれが瑞々しく思わずトマトを手にとって嗅いでみると、昔の幼い頃、畑の中でかじって食べたトマト独特の臭いがして、すぐさま塩を付けてそのまま食べると、無性に子供の頃が懐かしく思い出され、実に美味しくいただきました。作った方の「喜んでもらえるよう精魂込めて作りました」の言葉が嬉しくてたまりません。

最近、「心を込めて」とか「職人気質」等を目にすると心が動かされます。生殖医療の現場で働く私達は、このように「気持ちを込めて仕事する」ことはとても大切な事だと年を追う毎に強く感じます。

さて、看護部でのこの一年は、昨年(2005年7月)取得したISO9001を維持させていく事が課題でした。ISO9001を現実のものとして自分達の手足となって動かしていく事で、より正確に、より合理的に仕事し易くなった結果、患者さんが安心して治療を受けられるという満足度の向上に繋がらなくては意味がありません。少しずつではありますが、確実にISO9001が仕事に組み込まれているという実感があります。

朝のナースミーティングの前に夜勤者が、TCP/IPプロトコルを利用して、院内LANで接続されたパソコン同士でメモをやりとり出来るソフト(当院ではペタろうと呼んでいます)を立ち上げ、全部署からの情報の有無を確認する事から一日が始まります。外来や病棟でも必ずWチェックで治療介助を行い、それでも報告されるヒヤリ・ハットは、全体ミーティングで取り上げ、是正方法も視野に入れて検討します。また公共設備等の監視、点検も模範化して月の最初に係が点検し台帳に記録されますし、「異常ありません」の報告を受けるようになりました。教育についても、ISOの教育係が年内計画を作成し実行すると共に部署の教育も確実に行われるようになり、自分達のための教育として捉えられるようになりました。毎月の勉強会を続けることは自信にも繋がります。

ISO9001を取得して1年が経過したこの7月4日、無事にISOの維持審査に合格することが出来ました。審査当日はとっても緊張してハラハラドキドキでしたが、合格の結果を頂いて「本当に良かった」と安堵感で一杯になりました。同時にISO9001を医療の現場に取り込むことは自分を守るため、医療施設を守るため、ひいては患者さんを守るためには是非必要だと思います。今、全スタッフが「ISOが身になってきたなあ」と感じていると思います。

次に10年も前から院長が提唱しつづけている「不妊治療における心理面のサポート」が形となり歩み初めたと実感出来る一年でした。今年(2006年)の3月に第3回日本生殖医療心理カウンセリング学会が開催され、当院の臨床心理士の上野先生が生殖医療カウンセラーの第一号として登録されました。ここ一年間を振り返ってみても、心理相談室を訪れる患者さんはぐんと増えています。心理部門が整ってきていると思いま

す。また、不妊治療は患者さんを中心としたチーム医療で成り立っていることから考えると、看護部の心理サポートは心理部サポートへの前段階の大切な位置を担っている事を自覚し、日々研鑽する事が望まれます。

また、看護部では教室や講座の開催にも力を注いでいます。

先日の7月8日、大分市内の会館で、「赤ちゃん、今ならきっと授かる」講座が開催されました。3ヵ月に1度、不妊診療の啓蒙活動の一環として、院長を先頭にスタッフ全員が取り組んでいる講座です。この講座では、不妊治療をされて妊娠、出産に至った患者さんのお話が組み込まれているのですが、今回お話を下さったご夫婦は、初診時の印象とはすっかり変わられて、笑顔がこぼれ、また何歳も若々しく感じられ、「親になった」自信で満ち溢れていました。治療に入る前から、そして治療中もきつかった事が想像されます。私達は、生殖医療という凄いとこで働かせてもらっているという畏敬の念を忘れずに、責任を果たしたいと思いました。

そしてまた、今年の4月から、大分県での不妊治療費の助成金が、2年から5年へと拡充され、5年の範中であれば治療を中断された方が再度治療を開始しても治療費の助成はできると緩和されました。私達はこれからも保険適用に向けて国会請願等も辛抱強く続けていくつもりです。

今、1年を振り返りながら、事故もなく過ごせた事に感謝すると共に、常に初心を忘れずに少しでも多くのご夫婦に喜んでいただける様、日々、「精魂込めて」働きたいと思えます。

看護部 指山 実千代



一年を振り返って

研究室・検査室

セント・ルカ節目のこの時期に一年を振り返ってみると、以前よりさらに飛躍した1年であったような気がします。2005年は、5月に13th WORLD CONGRESS ON IN VITRO FERTILIZATION ASSISTED REPRODUCTION & GENETICS がトルコのイスタンブールで行われ、研究室からはIVM(体外成熟培養:in vitro maturation)に関して、凍結胚移植に関しての2演題、発表しました。また、10月にはConjoint Annual Meeting ASRM/CFAS 2005 がカナダのモントリオールで行われ、研究室からはRESA(逆行性精巣上体精子吸引法:retrograde epididymal sperm aspiration)に関して発表しました。一年に2度も海外学会に参加させていただき、生殖補助医療に携わる世界中の方々と対等に発表や意見交換をすることができるというのは、私たちエンブリオロジストにとってはそうめったにあることではありません。一人一人が、ルーチンワークのかたわらで研究課題にも積極的に取り組んでいないとできない発表ですが、それ以前に、このような恵まれた環境で仕事ができることは幸せなことなのだとしみじみ感じます。

今年は、院外の先生方との共同研究が充実した一年であったと思います。九州大学生体防御医学研究所附属病院 有馬隆博先生と共同で、インプリンティングに関する研究を行いました。この研究は受精卵になる前の卵子をずっと未熟な段階、遺伝子の刷り込みを獲得する時期にまでさかのぼり解析したもので、今年6月にチェコのプラハで行われたThe 22nd Annual Meeting of the European Society of Human Reproduction and Embryologyで、院長先生が発表されました。この研究は今後もまだまだ発展していこうとしています。また、3年前より醍醐渡辺クリニック不妊センター長、京都大学名誉教授の森崇英先生、広島大学大学院生物圏科学研究科 助教授の島田昌之先生のご指導で取り組んできた、PCO患者さんに対して未成熟卵子を採取しIVM-IVF-ET(体外成熟培養-体外受精-胚移植)を行うという研究も、妊娠、出産という形で、患者さんの夢実現のお手伝いをさせていただくことができました。また、いつも私たちラボ全体をみてくださり、ことあるごとにご相談に乗ってくださっている高度生殖医療技術研究所(ARMT)の荒木康久先生のご指導で、精液性状または精子の遺伝子レベルからみたARTへの影響を解析し、セーラベースを用いて統計を行い学会発表、論文を作成しました。

そして今年から取り組んでいる研究は、東北大学先進医工学研究機構 助教授 阿部宏之先生らが開発した、胚呼吸能測定装置を用いた受精卵の質評価です。胚のミトコンドリア機能に着目したこの方法によれば、電気化学的イメージング技術により受精卵を侵襲することなく呼吸能を測定することができます。これまで胚の評価はどうしても観察者の主観が影響してしまう形態的評価にとどまっていたましたが、呼吸能を数値化する

ことにより客観的に胚の活性値を評価することができます。この技術を応用すれば、これまでの形態的評価と併用し総合的に胚の評価が行え、唯一つの最良好胚を患者さんにETすることができ、多胎妊娠を避けることができると期待されます。これまで2個移植していたのが、妊娠率を下げることなく、どの患者さんにも1個移植することができるようになるかもしれません。

また、最近では生殖補助医療といえれば必ずトピックにのぼると言ってもいいほどの受精卵の着床前診断（PGD）に関しては、当院でも患者さんとの関わりのなかで必要性を感じ、取り組み始めており、2005年8月の受精着床学会では着床前診断の有効性についてシンポジウムで発表しました。著書として『産婦人科の世界 vol.58 no.6 Jun 2006』で「着床前診断の有用性」が掲載されました。

このように、いつになっても研究課題は尽きることはありません。日常の業務である体外受精-胚移植や、凍結胚移植、受精卵の培養、精液検査、胚移植の際に患者さんにさせていただいているお話などのなかで、ふとした場面でぶつかる疑問点や「このままでよいのか」という向上心をいつまでも持ち続けていきたいと思えます。

2005年に8月には、ISO9001:2000認証を取得し、いよいよ日本でもトップレベルのスタンダードを当院でも取り入れるようになりました。妊娠されて無事に当院を卒業されていく患者さんたちの「母」の顔を直接見届けることができる機会が少ない研究室です。しかし一つでも多くの受精卵たちが将来赤ちゃんになることができるようにと、受精卵を扱わせていただいていることに誇りを持ち、最高の環境で培養してあげたいと思えます。すべては患者さんの夢の実現のため、ひとつひとつ丁寧に仕事をしていきたいとこの節目の時期に改めて襟を正しています。

研究室 熊迫 陽子



一年を振り返って

事務部

紫陽花の花が咲く梅雨のこの時期になりますと、毎年の事ながら走り続けている歩調を少し緩めて、受付としてのこの一年を振り返ります。

この一年の受付はどうであったのか？患者さんに対して自分達は？自分に恥じることなくこの一年を送れたか？各々が、自分の中に課題を持ち、一つの目的に向かうことができたか？などを考えてみます。

この一年は、受付要員が三人体制から四人体制になり、それぞれ年齢も個性も違う四人が、互いに切磋琢磨しながら頑張った年になったと思います。

それまでは、受付が忙しく立ち働いている為に、「聞きたい事を遠慮して帰りました」との患者さんの声に接することもあり、とても残念に思うと同時に申し訳ない気持ちで一杯でした。ですがこの一年は、かなり解消されたと思っています。四人体制になることで、見ている方にも安心感を持って頂けたのではないかと思います。

受付四人体制と共に、ISO.9001 を取り入れて一年になります。二度の内部審査とマネジメントレビューを行い、先日初めての維持審査も無事に終わりました。ISO.9001 では、受付の事務的な作業が文書化され、責任の所在が明確となっただけでなく、働く私たちとしても仕事がしやすくなりました。その事により、結果的には受付業務に厚みが出たと思われれます。

セント・ルカ産婦人科のラボ(研究室)と看護師部門は、通常の業務を行いながら年間を通じて、学会発表を平均 30 題程発表しております。発表と無縁の受付は「凄いなあ」と何時も傍で感心しているだけでしたが、今年も受付が初めて、JISART(日本生殖補助医療標準化機関)で、パネリストをさせて頂きました。全国の JISART 施設が集まり、各部門から「生殖医療におけるリスクマネジメント」と題した発表を行い、活発な勉強会となりました。この会の中で当院受付は「受付における、リスクマネジメント」と題して 2001 年 1 月 25 日からのヒヤリハット 265 件をまとめて発表しました。初めての経験でしたが、いかにラボや看護部が常日頃より研鑽し学会発表しているかを実感しました。

この一年受付が持っていた課題としては、会計システムのたび重なる故障とスピードが遅い事、領収書の印字が消える事の三点でした。会計システムは患者さん方の「よりわかり易い領収書が欲しい」の声により当院が開発しました。しかし、感熱紙使用の為に印字が消える弱点が当初より懸念されておりましたし、会計入力後から会計システムに行くまでに時間が掛かるなどの問題点もありました。その事をふまえ現在改良中です。もう暫くご辛抱ください。

最後にセント・ルカ産婦人科受付で2005年度不妊治療助成金の申請を取扱いました、総件数が出ましたのでお知らせいたします。

大分県助成金申請者・・・	111名	¥32,955,496
大分市助成金申請者・・・	184名	¥10,447,295
他県助成金申請者・・・	4名	¥ 400,000
県と市両方助成金申請者・・・	50名	¥ 4,678,465
大分市以外の市助成金・・・	6名	¥ 600,000
合計	355名	¥49,081,256

(*上記の金額は申請により患者さんが助成を受けた金額の総額です)

不妊治療が保険適用になる日が一日も早く来ますように、署名活動の方もまだまだ続けて行きたいと思います。

今後も患者さんの希望に答えられるように努力すると共に、常に患者さんの声に耳を傾ける受付でありたいと思います。

事務部 渡邊 佳代



一年を振り返って

情報処理室

今年もまた年報を作成する季節が巡ってきました。

3年前までは、情報処理室スタッフ全員で一斉に院内データの排出、入力ミスのチェック、集計を同時に行っていましたが、昨年からは、2004年に入職した若いスタッフが一人でコツコツとデータの入力ミスのチェック、入力修正、データ集計をして、これだけの情報の詰まった年報を作成しています。表には出ないとても地味な仕事ですが、情報処理室にとって、とても重要でデータを見る目を養うことのできる大切な仕事です。今年も素晴らしい年報ができました。院内のデータを集計するという重責の中、一切手を抜かず、一生懸命真面目にやってくれたスタッフがいたからこそ、年報作成の大変な時期に、各地に SarahBase のデモンストレーションや導入に行くことができましたし、煩雑な事務処理の多かった、4回目の国会請願を行うこともできました、ルカのスタッフは素晴らしいと思いますし、心から感謝したいと思います。

例年、臨時国会で行っていた国会請願ですが、昨年9月の郵政解散の影響を受け、4回目の国会請願は、2月の通常国会で行うことになりました。医療系の衆議院議員、参議院議員の先生方に協力をお願いをするも、なかなか理解してもらえず、はがゆい思いをしてきましたが、何とか、8名の衆議院議員の先生方によって、9991名の署名簿を持って国会請願を行うことができました。しかし、8名のうちのお一人の先生から、せっかく1万人近い署名を集められたのだから、もっと多くの代議士に協力を依頼して、超党派で多人数の請願を行わなくてはというご意見をいただきました。5回目の国会請願は代議士の方々に一人でも多くご協力いただけるように活動したいと考えております。そして、署名簿への協力をたくさんの方にしていただけるように外に向けてアピールしていきたいと思います。

昨年はとても忙しい1年でした。JISARTで SarahBase が公認ソフトとして認められた後、たくさんの施設でデモンストレーションをさせていただきました。

JISART に報告するデータや日本産科婦人科学会に報告するデータだけであれば、SarahBase を1台のみ導入して、報告部分のみデータ入力を行えば導入費用は基本料金の35万円のみで導入できるのですが、SarahBase は電子カルテと違い、入力したデータは全てデータベースに項目ごとに蓄積されるという大きな特色を持っていますので、実際お尋ねしてデモを行うと、どの施設のスタッフの方も、体外受精のデータだけではなく、レセコンからの患者データ取り込み（これを行うと、基本的な患者情報を入力する手間が省け、ご主人とリンクさせることにより、精液検査データ管理等がやり易くなります）、ヒューナー検査や卵管造影検査の内容、外注に出した検査の内容、自院で使用している検査機器からのデータ取り込み、レセコンから使用した注射データや投

薬データの取込などを希望され、結局フルカスタマイズになってしまいます。

SarahBase と電子カルテを比較した場合、電子カルテの場合は、あくまでもワープロで打ち込んでいる状態であり、後に集計が必要になったときに、必要な部分のみデータとして抽出して集計や統計を行いたい場合でもデータを自由に選んで抽出することができませんし、検査機器からのデータ取り込みや、レセコンからのデータ取り込み等のカスタマイズが複雑で、導入費用やカスタマイズを含め、驚くことに、最終的には数千万円の費用が必要になってきます。それを考えた場合、SarahBase は項目等の設定が既に不妊領域内容でカスタマイズが終了していること、電子カルテではなく、あくまでも院内で発生したデータ全てをデータベースとして蓄積できるように作りこまれているので、レセコン、電子カルテ、オーダリング、検査結果の FD 取り込み、自院の検査機器からのデータ取り込みなど、SarahBase では自在に行うことができます。

施設ごとのカスタマイズをするにしても、外部機器からの取り込み部分や、同意書等帳票類の名称や書式変更、検査結果の取り込み書式の変更等だけですみますので、導入実績として、自院専用でフルカスタマイズを行っても総額数百万で済んでしまいます（フルカスタマイズといっても、既に、不妊領域専用で作成していますので、そこまで自院専用でオリジナルを作成する施設は無いようです）。

私たちは、生殖補助医療領域で一番必要な事は、正確なデータを蓄積して、多方面からの分析を行い、患者さんに正しい情報と、有益な情報をフィードバックすることだと考えています。今後、セント・ルカ産婦人科で電子カルテを導入するとしたら、現在 2 号用紙に記載されている費用発生の部分のみメモ代わりに電子カルテを利用して、その他のデータは全て SarahBase で管理することになると思います。これからの電子カルテ時代を考えると、SarahBase のツールとして電子カルテを使う時代が来るのかもしれませんが。

JISART では SarahBase を利用して蓄積したデータを事務局に転送し、全国にある加入施設のデータを集計し、JISART として公式に正確な妊娠率を発表するという、素晴らしい計画が現在進行しているようです。一日も早く、統一データを採用したシステムが完成することを私たちは願っています。

情報処理室 工藤 由香



外来・入院数 (2005.4.1~2006.3.31)

	入 院	外 来
4 月	129	1,951
5 月	90	1,518
6 月	139	2,004
7 月	147	1,984
8 月	136	2,017
9 月	140	1,959
10月	66	1,570
11月	137	1,745
12月	110	1,932
1 月	75	1,410
2 月	158	1,815
3 月	110	2,080
合計	1,437	21,985

入院数

(2005.4.1~2006.3.31)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
手術入院													
腹腔鏡手術	22	11	14	17	12	15	9	20	24	13	18	20	195
子宮内容除去術 (流産のため)	3	6	5	7	4	9	6	2	6	2	3	4	57
子宮筋腫核出術	2	3	4	4	3	4	2	2	1	2	3	2	32
卵巣穿刺術	2	2	0	3	2	0	0	4	2	0	2	0	17
経頸管子宮筋腫 切除術(TCR)	0	0	2	1	1	0	0	0	2	0	0	0	6
子宮内膜搔爬術	0	0	1	1	1	2	1	2	0	0	0	1	9
腹腔鏡下 子宮外妊娠手術	0	1	0	1	0	1	2	0	0	1	0	0	6
開腹手術 (子宮全摘出術)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
卵巣腫瘍核出術	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
開腹手術 (双角子宮形成術)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
減胎手術	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
合計	29	23	26	34	24	31	20	30	36	19	26	27	325

安静入院													
卵巣過剰刺激症候群	0	1	2	0	3	1	1	2	0	0	0	1	11
切迫流産安静	0	2	1	2	1	0	0	0	1	1	0	0	8
その他	0	0	0	1	0	1	3	0	0	0	0	0	5
合計	0	3	3	3	4	2	4	2	1	1	0	1	24

体外受精入院													
採卵	50	26	58	55	55	45	19	48	28	30	69	38	521
胚移植	27	19	34	39	35	37	9	34	20	15	44	25	338
凍結胚移植	23	19	18	16	18	25	14	23	25	10	19	19	229
GIFT, ZIFT, TET	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	100	64	110	110	108	107	42	105	73	55	132	82	1,088
入院総計	129	90	139	147	136	140	66	137	110	75	158	110	1,437

妊娠数 (1992.6.3~2006.3.31)

	周期	1992~1993	1993~1994	1994~1995	1995~1996	1996~1997	1997~1998	1998~1999	1999~2000
体外受精 胚移植	採卵	104	235	270	259	300	328	285	220
	移植	75	174	209	219	263	268	239	184
	妊娠	6 (8.0 %)	30 (17.2 %)	60 (28.7 %)	54 (24.7 %)	56 (21.3 %)	55 (20.5 %)	56 (23.4 %)	48 (26.1 %)
顕微授精 胚移植	採卵	0	66	197	235	249	222	271	356
	移植	0	43	154	208	236	185	231	283
	妊娠	0 (0.0 %)	4 (9.3 %)	19 (12.3 %)	38 (18.3 %)	35 (14.8 %)	34 (18.4 %)	33 (14.3 %)	36 (12.7 %)
凍結融解胚 移植 (ICSI後 凍結含む)	凍結融 解周期	2	4	8	27	56	92	148	101
	移植	2	4	8	26	56	90	144	88
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	1 (12.5 %)	0 (0.0 %)	9 (16.1 %)	15 (16.7 %)	34 (23.6 %)	22 (25.0 %)
配偶子 卵管内移植	採卵	13	43	27	12	10	15	14	11
	移植	12	42	27	12	10	15	14	11
	妊娠	2 (16.7 %)	12 (28.6 %)	8 (29.6 %)	4 (33.3 %)	3 (30.0 %)	5 (33.3 %)	1 (7.1 %)	2 (18.2 %)
接合子 卵管内移植	採卵	0	0	0	8	8	1	12	4
	移植	0	0	0	8	8	1	12	4
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	1 (12.5 %)	1 (12.5 %)	0 (0.0 %)	2 (16.7 %)	1 (25.0 %)
体外受精胚 卵管内移植	採卵	0	8	4	7	2	2	0	0
	移植	0	7	4	6	2	2	0	0
	妊娠	0 (0.0 %)	1 (14.3 %)	1 (25.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
顕微授精胚 卵管内移植	採卵	0	1	4	5	0	4	2	0
	移植	0	1	4	5	0	4	2	0
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	1 (25.0 %)	2 (40.0 %)	0 (0.0 %)	1 (25.0 %)	1 (50.0 %)	0 (0.0 %)
凍結融解 卵管内移植	凍結融 解周期	0	0	0	0	0	2	1	0
	移植	0	0	0	0	0	2	1	0
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	1 (50.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
体外成熟培養 体外受精 胚移植	採卵	0	0	0	0	0	0	0	0
	移植	0	0	0	0	0	0	0	0
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
小計	採卵	117	353	502	526	569	572	584	591
	凍結融 解周期	2	4	8	27	56	94	149	101
	移植	89	271	406	484	575	567	643	570
	妊娠	8 (9.0 %)	47 (17.3 %)	90 (22.2 %)	99 (20.5 %)	104 (18.1 %)	111 (19.6 %)	127 (19.8 %)	109 (19.1 %)
ART以外の妊娠数		146	221	207	242	195	168	179	164
妊娠総数		154	268	297	341	299	279	306	273

妊娠数 (1992.6.3~2006.3.31)

	周期	2000~2001	2001~2002	2002~2003	2003~2004	2004~2005	2005~2006	合計
体外受精 胚移植	採卵	142	124	178	124	91	69	2,729
	移植	116	93	129	89	52	40	2,150
	妊娠	44 (37.9 %)	33 (35.5 %)	48 (37.2 %)	35 (39.3 %)	13 (25.0 %)	21 (52.5 %)	559 (26.0 %)
顕微受精 胚移植	採卵	325	377	347	425	456	446	3,972
	移植	242	272	219	300	322	298	2,993
	妊娠	55 (22.7 %)	59 (21.7 %)	51 (23.3 %)	72 (24.0 %)	61 (18.9 %)	86 (28.9 %)	583 (19.5 %)
凍結融解胚 胚移植 (ICSI後 凍結含む)	凍結融 解周期	184	201	258	233	246	244	1,804
	移植	162	137	174	188	213	229	1,521
	妊娠	40 (24.7 %)	46 (33.6 %)	45 (25.9 %)	40 (21.3 %)	49 (23.0 %)	54 (23.6 %)	355 (23.3 %)
配偶子 卵管内移植	採卵	4	1	2	0	1	0	153
	移植	4	1	2	0	1	0	151
	妊娠	1 (25.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	38 (25.2 %)
接合子 卵管内移植	採卵	10	0	0	0	0	0	43
	移植	10	0	0	0	0	0	43
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	5 (11.6 %)
体外受精胚 卵管内移植	採卵	0	0	0	0	0	0	23
	移植	0	0	0	0	0	0	21
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	2 (9.5 %)
顕微受精胚 卵管内移植	採卵	1	0	0	0	1	0	18
	移植	1	0	0	0	1	0	18
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	5 (27.8 %)
凍結融解 卵管内移植	凍結融 解周期	0	0	0	0	0	0	3
	移植	0	0	0	0	0	0	3
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	1 (33.3 %)
体外成熟培養 体外受精 胚移植	採卵	0	0	0	0	2	6	8
	移植	0	0	0	0	0	0	0
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
小計	採卵	482	502	527	549	551	521	6,946
	凍結融 解周期	184	201	258	233	246	244	1,807
	移植	535	503	524	577	589	567	6,900
	妊娠	140 (26.2 %)	138 (27.4 %)	144 (27.5 %)	147 (25.5 %)	123 (20.9 %)	161 (28.4 %)	1,548 (22.4 %)
ART以外の妊娠数		164	169	162	155	168	212	2,552
妊娠総数		304	307	306	302	291	373	4,100

・採卵日と胚移植日が異なるため、年ごとの移植数に多少の変動が出来ます。

外来患者及び妊娠結果の内訳

(2006.3.31 現在)

1. 当院の患者数

1) 開院 (1992.6.3) ~ 本年 (2006.3.31) までの外来患者数

14,620 人

(内訳) 男性 4,806 人 (32.9%) (平均年齢 33.4 才)

正常 1,996 人 (41.5%) 異常 2,810 人 (58.5%)

女性 9,814 人 (67.1%) (平均年齢 30.8 才)

・ 拳児希望の女性 7,251 人 (73.9%) (平均年齢 30.9±4.4 才)

・ 妊娠件数 4,100 件 (平均年齢 31.5±4.1 才)

・ 妊娠に至らなかった女性 3,698 人

2) 妊娠率(患者あたり) 49.0% $\{(7,251-3,698)/7,251\}$

3) 治療を途中で諦めた女性 3,426 人 (47.2%)

a) 諦めざるをえなかった人(無精子症, 早発閉経, 高齢など) 662 人 (9.1%)

b) いつの間にか諦めた人 2,764 人 (38.1%)

4) 実妊娠率(aを除く患者あたり) 79.2% $\{(7,251-3,698)/7,251-(3,426-662)\}$

5) 実妊娠率(a,bを除く患者あたり) 92.9% $\{(7,251-3,698)/(7,251-3,426)\}$

2. 妊娠の内訳

他院へ紹介済	3,042 例	(74.19%)
流産	830 例	(20.24%)
子宮外妊娠	114 例	(2.78%)
胞状奇胎	14 例	(0.34%)
中絶	1 例	(0.03%)
不明	99 例	(2.42%)
計	4,100 例	(100%)

3. 出産結果 (他院へ紹介済の 3,042 例中、妊娠結果が判明している 2,675 例について)

1) 妊娠結果

満期産	2,308 例	(86.28%)
満期産+死産*	2 例	(0.08%)
満期産+外妊*	1 例	(0.04%)
早産	290 例	(10.84%)
早産+死産*	7 例	(0.26%)
過期産	14 例	(0.52%)
死産	25 例	(0.93%)
流産	21 例	(0.79%)
流産+死産*	1 例	(0.04%)
奇形中絶	3 例	(0.11%)
人工妊娠中絶	3 例	(0.11%)
計	2,675 例	(100%)

2) 多胎妊娠について

単胎	2,388 例	(89.3%)	2,388 児
双胎	271 例	(10.1%)	542 児
品胎	16 例	(0.6%)	48 児
計	2,675 例	(100%)	2,978 児

3) 出生児の状態

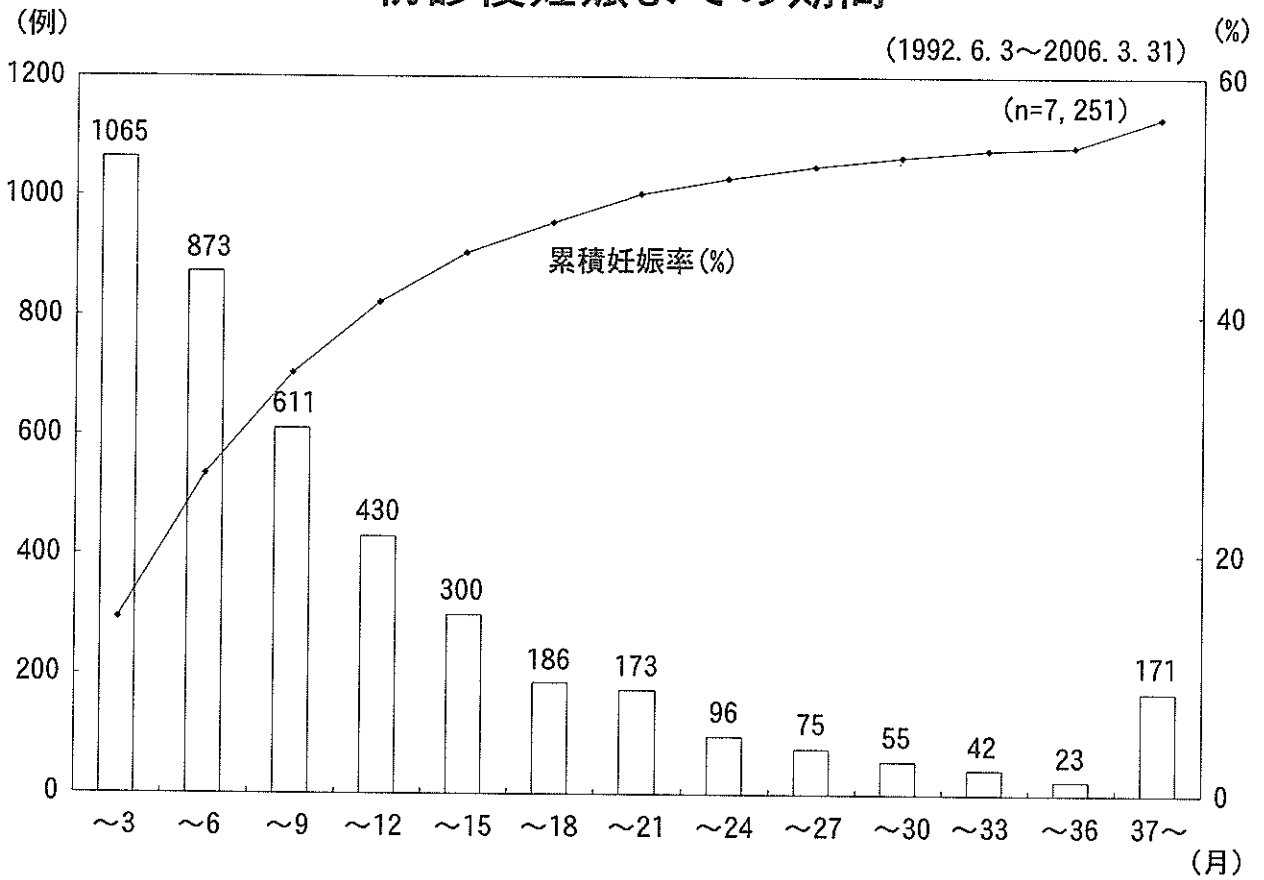
正常	2,264 児	(76.0%)
低体重児	561 児	(18.9%)
異常(死産等含む)	153 児	(5.1%)
(うち奇形を含む主な異常)	(86 児)	(2.9%)
計	2,978 児	(100%)

4. 妊娠に至った主たる有効治療

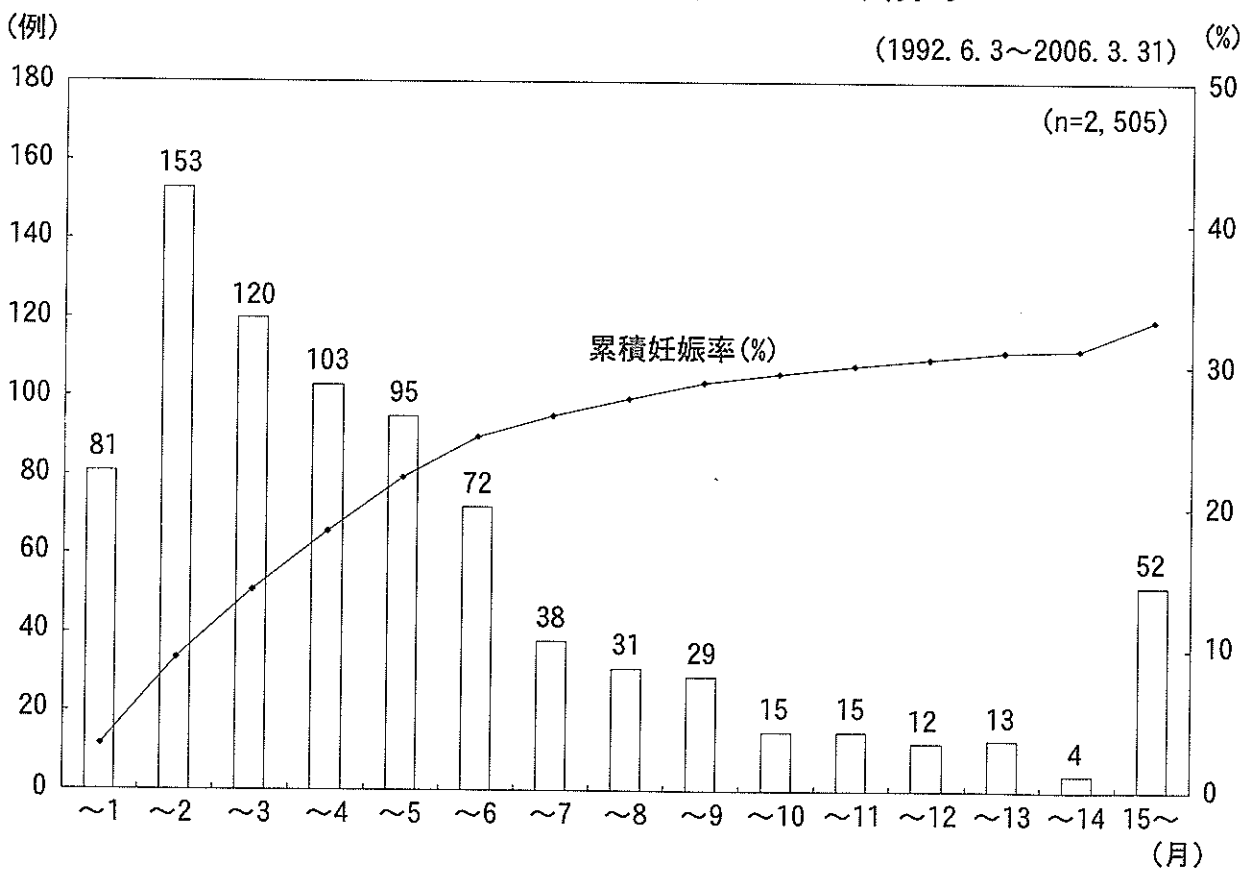
ART(生殖補助医療)全体	1,548 例	(37.75%)
IVF-ET(体外受精)	561 例	(13.68%)
MF-ET(顕微授精)	588 例	(14.34%)
CRYO-ET(凍結胚移植)	356 例	(8.68%)
GIFT(配偶子卵管内移植法)	38 例	(0.93%)
ZIFT(接合子卵管内移植法)	5 例	(0.12%)
ART以外	2,552 例	(62.25%)
AIH(人工授精)	675 例	(16.46%)
HMG-HCG, Gn-RHa	377 例	(9.20%)
クロミフェン	357 例	(8.71%)
クロミフェン-HMG	3 例	(0.07%)
セキシビット-HCG	1 例	(0.03%)
ヒューナーテスト, タイミング指導	509 例	(12.41%)
HSG 直後	256 例	(6.24%)
腹腔鏡検査後自然妊娠	245 例	(5.98%)
リンパ球免疫療法	15 例	(0.37%)
その他	114 例	(2.78%)
計	4,100 例	(100%)

(2006/3/31 セント・ルカ産婦人科)

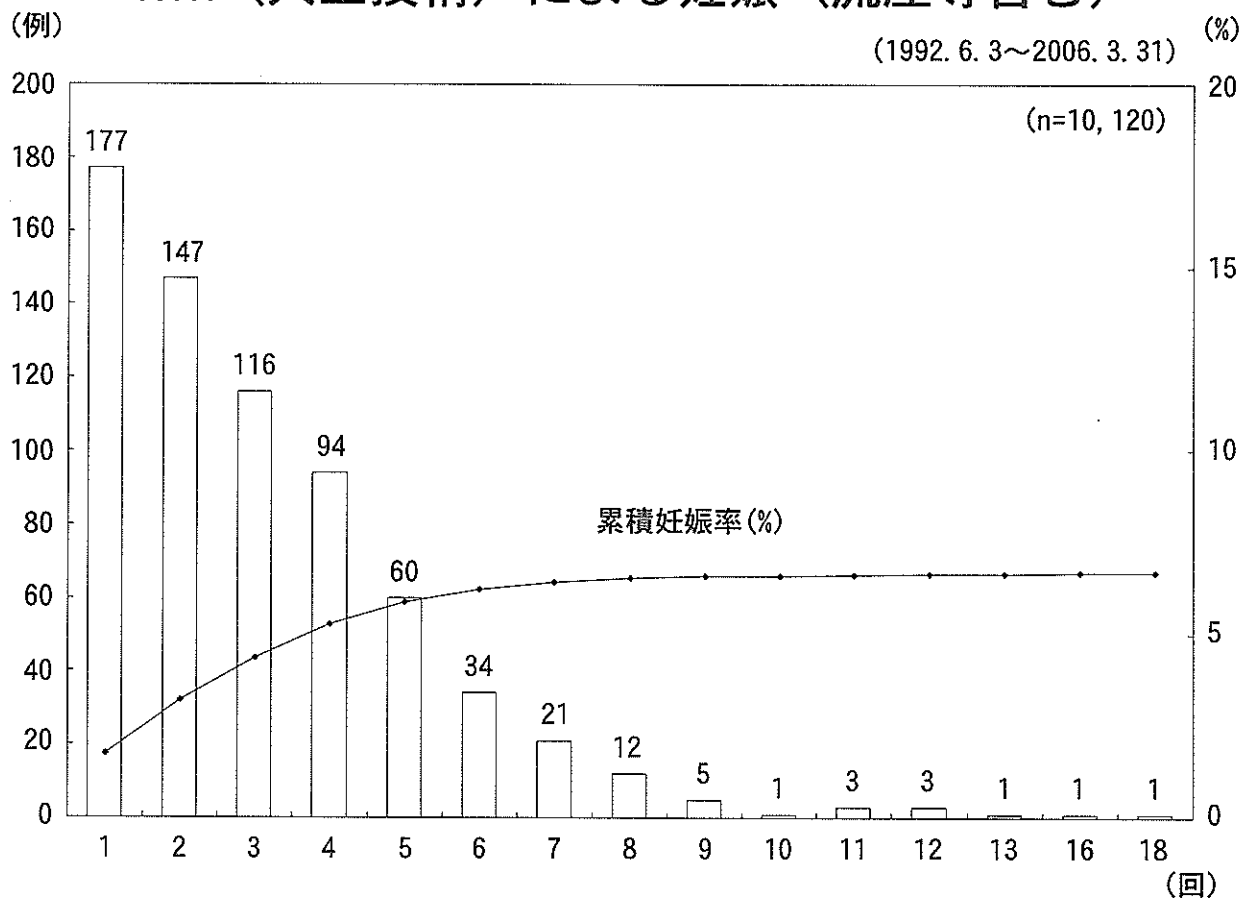
初診後妊娠までの期間



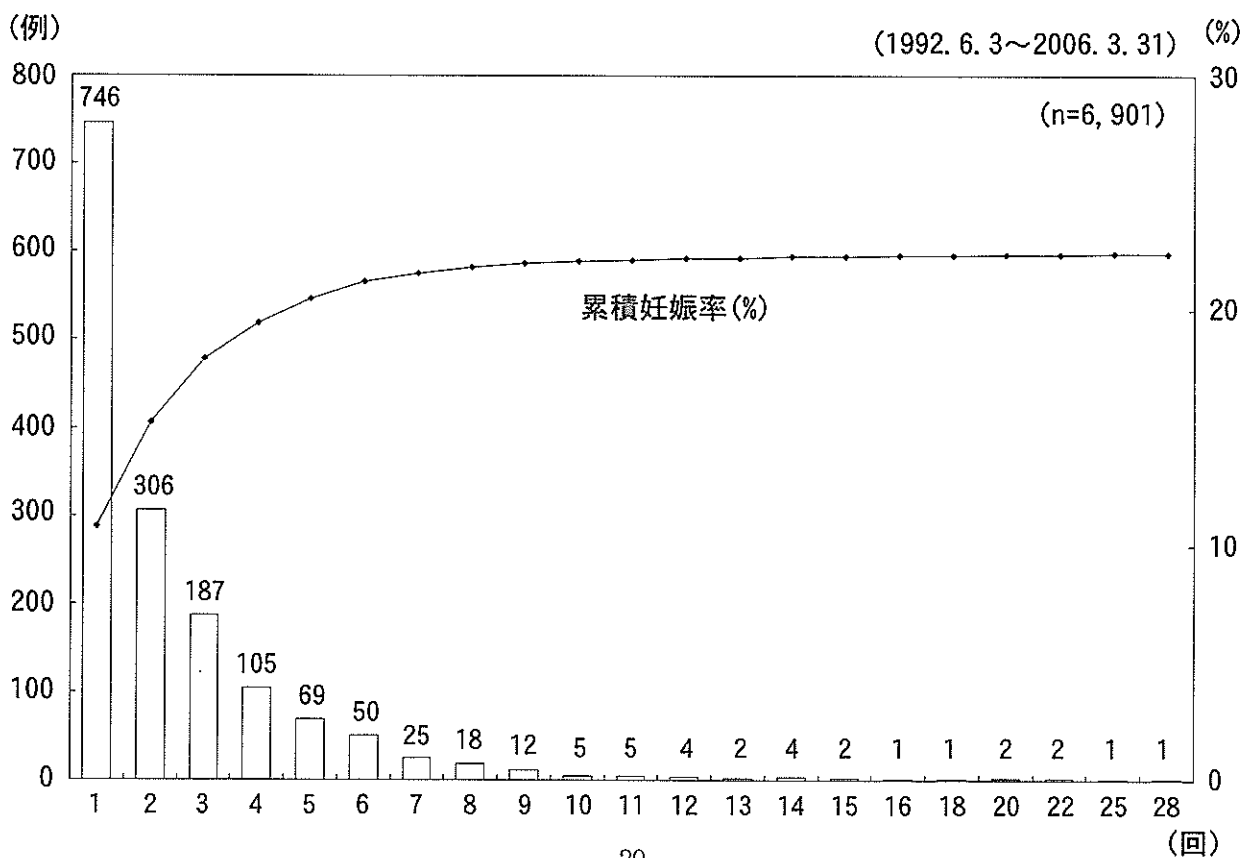
腹腔鏡検査後妊娠までの期間



AIH (人工授精) による妊娠 (流産等含む)



ART (生殖補助医療/体外受精・顕微授精・GIFT) による妊娠



ARTによる妊娠 (1992.6.3~2006.3.31)

	採卵周期数	胚移植周期数 (採卵あたり%)	妊娠周期数 (移植あたり%)	流産周期数 (妊娠あたり%)
IVF-ET	2,752	2,171 (78.9%)	561 (25.8%)	138 (24.6%)
MF-ET (男性因子 以外も含む)	3,998	3,012 (75.3%)	588 (19.5%)	173 (29.4%)
(ICSI)	3,651	2,914 (79.8%)	577 (19.8%)	168 (29.1%)
GIFT	153	151 (98.7%)	38 (25.2%)	13 (34.2%)
ZIFT	43	43 (100%)	5 (11.6%)	1 (20.0%)
CRYO-ET	1,807	1,524 (84.3%)	356 (23.4%)	85 (23.9%)
ART. total	8,753	6,901 (78.8%)	1,548 (22.4%)	410 (26.5%)

ARTによる出産および出生児の状況 (1992.6.3~2006.3.31)

出産周期	966周期				妊娠結果が判明している966周期に限る			
妊娠結果	満期産	751周期 (77.74%)		死産	13 周期 (1.35%)			
	満期産、外妊	1周期 (0.10%)		流産	12 周期 (1.24%)			
	満期産、死産	2周期 (0.21%)		流産、死産	1 周期 (0.10%)			
	早産	175周期 (18.12%)		奇形中絶	2 周期 (0.21%)			
	早産、死産	5周期 (0.52%)		人工妊娠中絶	1 周期 (0.10%)			
	過期産	3周期 (0.31%)						
多胎妊娠について	1,180児	単胎	763 例 (79.0%)	763 児				
		双胎	192 例 (19.9%)	384 児				
		品胎	11 例 (1.1%)	33 児				
低体重児	339児	(28.7%)						
異常児	93児	(7.9%)		うち奇形を含む主な異常	53児 (4.5%)			

異常児の詳細 (1992.6.3~2006.3.31)

主な異常	86児	86児/2,978児 (2.9%)	
脳・神経系異常	12児	多指症	3児
染色体異常	9児	合指趾・裂手症	1児
腸管異常	3児	部位不明腫瘍	1児
水腎水尿管症	1児	右外耳道閉鎖	1児
出産後死亡	6児	鎖肛	1児
縦隔気腫	2児	先天性四肢形成異常	1児
甲状腺機能低下症	3児	先天性鼻涙管閉塞	2児
心臓血管系異常	15児	肺出血	1児
先天性右股関節脱臼	1児	奇形中絶	3児
膝関節異常	1児	Russell Silver症候群	1児
口唇裂・口唇蓋裂	10児	ステージウィーバー症候群	1児
左難聴疑い	1児	非免疫性胎児水腫	1児
気胸	1児	先天性白内障	1児
ヘルニア	3児		

セント・ルカ産婦人科 1年のあゆみ

(2005.4.1～2006.3.31)

学会発表	36 題	
院長	3	
看護部	18	
研究室	15	
学会講演会参加	28 回	
研修会	5 回	
論文	7 編	
著書 (共著)	8 編	4 名
主催講演	7 回	
セント・ルカセミナー	1	
セント・ルカミニセミナー	2	
『赤ちゃん～今ならきつと授かる～』講座	4	総参加人数 247 名
院長講演	5 回	
不妊カウンセラー活動	33 回	
新患教室	8	総参加人数 321 名
体外受精教室	11	総参加人数 481 名
ガーネットサークル	3	総参加人数 14 名
オリーブの会	10	総参加人数 45 名
治療を終結した方のお話	1	総参加人数 12 名
院内講習会参加	6 回	
京都大学名誉教授、醍醐渡辺クリニック不妊センター長 森崇英先生ご来院・ご指導	2 回	
高度生殖医療技術研究所所長 荒木康久先生ご来院・ご指導	3 回	
広島大学大学院生物圏科学研究所助手 島田昌之先生ご来院・ご指導	1 回	
不妊治療の保険適用に向けての活動	6 回	

行事一覧(1)

- 2005 4.2 セント・ルカ産婦人科&メディテック・ルカ合同お花見(大分・平和市民公園)
- 4.3 日本生殖医療心理カウンセリング研究会世話人会議(京都) 参加<上野、院長>
- 4.5 個人情報保護法対応速習講座および ISO 委員会会議 日本 LCA 田中繁充氏ご来院
- 4.8 第 21 回 大分市医師会産婦人科～内分泌・不妊・代謝～懇話会
参加<平松、工藤由、足立小、梅田、越名、渡邊、那須、佐藤晶、城戸、長木、
工藤美、柴田、指山、上野、根岸、院長>
「母体血清マーカーテストによる出生前スクリーニングの意義」
(東京慈恵会医科大学産婦人科 田中忠夫先生)
- 4.9 第 22 回『赤ちゃん～今ならきつと授かる～』講座(大分・トキハ会館)
参加者 58 名 講師<上野(心理士)、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生>
参加<越名、熊迫、河野、江藤、篠田、指山、根岸>
衆議院議員衛藤晟一代議士(厚生労働副大臣)『赤ちゃん～今ならきつと授かる～』
講座にて保険適用に向けてのお話
- 4.12 第 75 回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 4.14 ISO9001 委員会会議 日本 LCA 田中繁充氏ご来院
- 4.15 第 8 回 全国縦断! オラクルテクノロジーセミナー in 大分 参加<平松、工藤由>
- 4.17 第 62 回 日本不妊学会九州支部会(福岡) 参加<根岸、院長>
発表: 「未成熟卵における 1 日前培養後の ICSI(1 day old ICSI)の検討」(那須恵)
「体外受精妊娠困難例における逆行性精巣上体精子吸引法により採取された
精巣上体精子を用いた卵細胞質内精子注入法の新しい試み」(城戸京子)
「男性患者の不妊治療に対する意識調査～初診時～」(恵良郁絵)
「治療終結期の意思決定に対する患者の心理
～妊娠に至らず治療終結を決意した元患者を囲んで～」(上野桂子)
- 4.23 第 3 回 セント・ルカ ミニセミナー
講師 杉野 利久先生 <広島大学大学院生物圏科学研究科助手>
「新規消化管ホルモン: グレリン」
講師 森 崇英先生 <醍醐渡邊クリニック不妊センター長、京都大学名誉教授>
「卵の発生支持能とその調節」
座長 宮川 勇生 先生 <大分大学医学部名誉教授>
- 4.30 第 97 回 体外受精教室 参加者 55 名 参加<足立直、斉高>
- 4.30 第 2 回 第 3 期オリーブの会 参加者 8 名
- 5.3 ISO9001 品質マニュアル勉強会 日本 LCA 田中繁充氏ご来院
- 5.7 第 7 回 新患教室 参加者 26 名 参加<平井、江藤、篠田、指山>
- 5.7 第 7 回 第 1 期・第 2 期 合同オリーブの会 参加者 5 名
- 5.12 ISO9001 内部監査員研修 日本 LCA 田中繁充氏ご来院
- 5.14 第 21 回 北海道産婦人科生殖医学研究会(北海道)
講演: 「不妊治療をめぐる当院の経験と最近の話題」(院長)
- 5.16 新職員 三重野直美さん(看護部)
- 5.17 第 76 回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 5.19 岡本クリニック(大阪)Sarah Base デモンストレーション <工藤由>
- 5.19 ISO9001 内部監査 日本 LCA 田中繁充氏ご来院

行事一覧(2)

- 5.21 第16回 哺乳動物卵子学会(八戸) 参加<院長>
発表:「未成熟卵における一日前培養後のICSI(1 Day old ICSI)の検討」(那須恵)
「体外受精妊娠困難例における逆行性精巣上体精子吸引法により採取された
精巣上体精子を用いた卵細胞質内精子注入法の新しい試み」(城戸京子)
- 5.25 13th WORLD CONGRESS ON IN VITRO FERTILIZATION ASSISTED
REPRODUCTION & GENETICS (ISTANBUL) 参加<院長>
発表:「Quality of human follicular oocytes as assayed by cumulus cell
morphology and progesterone production for in vitro maturation」(佐藤千賀子)
「Optimization of timing of embryo transfer by using cryopreservation」
(平井香里)
- 5.29 第9回 妊娠・出産をめぐる自己決定権を支える会(東京) 参加<門屋、上野>
- 6.2 個人情報保護対策セミナー 参加<渡邊、長木、指山>
- 6.4 第3回 第3期オリーブの会 参加者5名
- 6.4 JISART に対する Sarah Base デモンストレーション(東京) <工藤由、長木>
- 6.5 JISART シンポジウム(東京) 発表<大津> 参加<長木、柴田、院長>
発表:「JISART 審査報告(研究室)」(大津英子)
- 6.5 山王病院(東京)Sarah Base デモンストレーション <工藤由>
- 6.8 アシストセキュリティセミナー「どこまでできる!?Oracle データベース
セキュリティの現実」 参加<平松、工藤由>
- 6.9 ISO9001 事前調査 NQA-JAPAN 平手氏・勝又氏、日本 LCA 田中繁充氏ご来院
- 6.9 大分市医師会学術講演会 参加<平松、梅田、工藤由、足立小、越名、渡邊、那須、
佐藤晶、佐藤千、城戸、平井、長木、関、篠田、門屋、江藤、恵良、柴田、指山、
院長>
「患者第一の医療の実践ーコミュニケーションが救う医療環境」
(元ジョンズ・ホプキンス病院国際部ペイシェント・コーディネーター
岡本佐和子先生)
- 6.10 第1回 生殖・不妊心理カウンセラー養成講座(東京) 参加<上野>
- 6.10 「DocuWorks から始めるセキュリティ対策」 参加<平松、梅田、工藤由>
- 6.11 第8回 新患教室 参加者41名 参加<熊迫、篠田、江藤>
- 6.11 第25回 ガーネットサークル 参加者5名
- 6.14 第77回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 6.15 IBM ばそこん教室ホームページ作成講座
ホームページ・ビルダーVer9 エディターズ(福岡) 参加<梅田>
- 6.16 ISO9001 内部監査 日本 LCA 田中繁充氏ご来院
- 6.18 第17回 大分内視鏡下外科手術研究会 参加<松元、斉高、原井、指山、上野、
院長>
発表:「不妊症患者における腹腔鏡検査前後の心理」(河野絢子)
- 6.21 ISO9001 マネジメントレビュー 日本 LCA 吉川直伸氏ご来院
- 6.21 第87回 大分周産期研究会 参加<平松、梅田、工藤由、足立小、渡邊、那須、
平井、大津、足立直、斉高、松元、関、篠田、江藤、恵良、越光、原井、柴田、
指山、上野、根岸、院長>
発表:「不妊症患者における腹腔鏡検査前後の心理」(河野絢子)
- 6.23 ISO9001 文書審査 NQA-JAPAN 両角氏、宮口氏ご来院

行事一覧(3)

- 6.24 石川クリニック(大阪) エンブリオロジスト 小野崎美絵先生
Sarah Base 見学のためご来院
- 6.25 石川クリニック(大阪) 看護師長 大谷久子先生、
エンブリオロジスト 小野崎美絵先生 Sarah Base 見学のためご来院
- 6.25 第98回 体外受精教室 参加者73名 参加<足立直、斉高、恵良>
- 6.26 石川クリニック(大阪) 石川元春先生、ラボディレクター 石川慶子先生
Sarah Base 見学のためご来院
- 7.1 不妊治療の保険適用を求める活動—日本産科婦人科学会の体外受精・胚移植、
および GIFT の臨床実施に関する登録を行っている 633 施設に、保険適用に対する
協力依頼書、国会請願趣意書、署名簿を送付
- 7.2 第4回 第3期オリーブの会 参加者3名
- 7.3 生殖心理カウンセリング研究会 世話人会(東京) 参加<院長>
- 7.4 ART 女性クリニック(熊本) 小山伸夫先生、中田涼美さん
院内見学・研修のためご来院
- 7.6 ISO9001 内部監査 日本 LCA 田中繁充氏ご来院
- 7.6 IVF なんばクリニック(大阪) エンブリオロジスト 辻陽子先生、
プルービジョン 三井啓氏 Sarah Base 見学のためご来院
- 7.9 第1回 島根不妊・内分泌研究会(島根)
講演: 「不妊治療をめぐる当院の経験と最近の話題」(院長)
- 7.9 第8回 第1期・第2期 合同オリーブの会 参加者3名
- 7.12 ISO9001 本審査 NQA-JAPAN 両角氏、川合氏、富野氏ご来院
- 7.13 大分県立看護科学大学講義 講師<院長> 参加<平松、工藤由、越名、那須、
柴田、指山、根岸>
講義: 「不妊症講座」(院長)
- 7.16 第23回 『赤ちゃん~今ならきつと授かる~』講座(大分・トキハ会館)
参加者53名 講師<院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生>
参加<越名、平井、河野、江藤、越光、篠田、指山、根岸>
- 7.18 NHK ラジオ第一放送ホリデージャーナル~赤ちゃんが欲しい不妊治療 2005~
出演<院長>
- 7.19 第78回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 7.19 ART 女性クリニック(熊本) 森川絵里香さん 研修のためご来院
- 7.23 A-PART(東京) 参加<佐藤晶、大津、院長>
- 7.24 生殖バイオロジー東京シンポジウム(東京) 参加<佐藤晶、大津、院長>
- 7.30 第2回 ご夫婦二人だけの人生を選ばれた、元患者さんのお話 参加者12名
参加<二宮、門屋、松元、原井、指山、上野、院長>
- 7.30 第99回 体外受精教室 参加者39名 参加<斉高、足立直、恵良>
- 8.2 自家発電機(電時非常用)設置

行事一覧(4)

- 8.4 第23回 日本受精着床学会総会・学術講演会(大阪) 参加<佐藤晶、平井、根岸>
Round Table Discussion「Poor Responderをどう扱うか」座長(院長)
「不妊治療における心理カウンセリングの実際」座長(上野桂子)
市民公開講座：「生殖医療費の公的負担について」(院長)
シンポジウム：「着床前診断の有用性」(大津英子)
発表：「ヒト卵・卵丘細胞複合体の形態像と卵子の体外成熟能・発生能との相関」
(佐藤千賀子)
「体外受精妊娠困難例における逆行性精巢上体精子吸引法により採取された
精巢上体精子を用いた卵細胞質内精子注入法の新しい試み」(城戸京子)
「ウレアプラズマ感染が生殖補助医療(ART)に及ぼす影響」(長木美幸)
「男性患者の不妊治療に対する意識調査～初診時～」(恵良郁絵)
「治療終結期の意思決定に対する患者の心理
～妊娠に至らず治療終結を決意した元患者を囲んで～」(上野桂子)
- 8.9 第79回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 8.9 こが病院 橋口マリさん研修のためご来院
- 8.13 第9回 新患教室 参加者22名 参加<熊迫、篠田、河野>
- 8.15 BS EN ISO9001：2000 認証取得
- 8.19 第2回 生殖・不妊心理カウンセラー養成講座(東京) 参加<上野>
- 8.20 第100回 体外受精教室 参加者29名 参加<佐藤晶、斉高、足立直>
- 8.27 第12回 セント・ルカセミナー懇親会(別府)
- 8.28 第12回 セント・ルカセミナー
講師 荒木 康久先生 <高度生殖医療技術研究所所長>
「ARTにおけるエンブリオロジストの役割」
講師 佐藤 芳昭先生 <ソフィアレディスクリニック院長>
「女性の健康と血流」
講師 松本 亜樹子さん <Fine<Fertility information Network>代表>
「私にとっての不妊治療～今だから思うこと～」
講師 森 崇英先生 <醍醐渡邊クリニック不妊センター長、京都大学名誉教授>
「多嚢胞(性)卵巣症候群(PCOS)」
- 9.3 日本生殖医療標準化機関(JISART)ミーティング(東京) 参加<院長>
- 9.3 第5回 第3期オリーブの会 参加者5名
- 9.10 第10回 新患教室 参加者34名 参加<平井、河野、江藤>
- 9.10 第26回 ガーネットサークル OG1名、参加者5名
- 9.12 Sarah Base 導入打ち合わせ及びデモンストレーション 越田クリニック(大阪)、
山下レディースクリニック(神戸)、いしかわクリニック(大阪)、醍醐渡辺クリニック
(京都)、IVF なんばクリニック(大阪)、IVF 大阪クリニック(大阪) <工藤由>
- 9.17 第8回 日本IVF研究会(大阪) 参加<那須、佐藤千>
- 9.20 ISO9001 日本 LCA 田中繁充氏ご来院
- 9.20 ISO9001 認証取得祝賀会 (大分)
- 9.24 第101回 体外受精教室 参加者42名 参加<城戸、河野、斉高>
- 9.27 第80回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
-

行事一覧(5)

- 9.30 第22回大分市医師会産婦人科～内分泌・不妊・代謝～懇話会 参加<平松、梅田、工藤由、足立小、越名、佐藤晶、佐藤千、熊迫、大津、三重野、二宮、足立直、松元、関、篠田、江藤、越光、原井、柴田、指山>
「多嚢胞性卵巣症候群の病態と治療」(徳島大学 産科婦人科学 教授 苛原稔先生)
- 10.1 第9回 第1期・第2期合同オリーブの会 参加者2名
- 10.3 新職員 酒井操さん(看護部)
- 10.3 ウイメンズ・クリニック大泉学園(東京) 池田千秋先生、石川道夫さん
Sarah Base 見学のためご来院
- 10.8 第102回 体外受精教室 参加者22名 参加<佐藤千、酒井、足立直、斉高>
- 10.8 第6回 第3期オリーブの会 参加者5名
- 10.8 アルメイダ病院 第44回 QC 発表大会 参加<渡邊、佐藤晶、平井、恵良、柴田>
- 10.11 第81回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 10.15 Conjoint Annual Meeting ASRM/CFAS 2005(CANADA Montreal)
参加<院長>
発表：「New approach of intracytoplasmic sperm injection with epididymal sperm by retrograde epididymal sperm aspiration for multiple failures in ART」(城戸京子)
「Emotional status of infertility patients who consider the termination of reproductive treatment」(門屋英子)
- 10.17 IICO Business Meeting(CANADA Montreal) 参加<院長>
- 10.22 第24回『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館)
参加者66名 講師<上野(心理士)、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生>
参加<足立小、大津、篠田、酒井、河野、江藤、指山>
- 10.24 島根大学医学部産婦人科(島根) 金崎春彦先生院内研修のためご来院(~30日まで)
- 10.28 第3回 生殖・不妊心理カウンセラー養成講座(東京) 参加<上野>
- 10.29 ウイメンズ・クリニック大泉学園内覧会(東京) 参加<院長>
- 10.31 島根大学医学部産婦人科(島根) 折出亜希先生院内研修のためご来院(~6日まで)
- 11.1 第1回 セント・ルカ産婦人科倫理委員会
倫理委員；上野徳美先生(大分大学医学部医学科社会心理学 教授)、大塚三千代先生(大分大学医学部附属病院 看護部長)、緒方俊一先生(おがた泌尿器科医院 院長)、指山実千代(セント・ルカ産婦人科 看護師長)、野村陽一先生(日本福音ルーテル大分教会 牧師) (あいうえお順)
オブザーバー；有馬隆博先生(九州大学生体防御医学研究所附属病院)
- 11.1 おがた泌尿器科医院よりミーティング見学 首藤悦子さん、福永智子さん
- 11.5 JISART 倫理委員会(東京) 参加<院長、有馬隆博先生>
- 11.7 島根大学医学部産婦人科(島根) 平野開士先生院内研修のためご来院(~13日まで)
- 11.8 第82回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 11.12 第7回 第3期オリーブの会 参加者6名
- 11.12 第103回 体外受精教室 参加者49名 参加<長木、足立直、斉高>
- 11.15 おがた泌尿器科医院よりミーティング見学 広瀬かねよさん、畑島千春さん
-

行事一覧(6)

- 11.16 第50回 日本不妊学会(熊本) 参加<那須、城戸、大津>
WHO ICMART セミナー：「Data presentation and dissemination Clinical level」
(院長)
発表：「ヒト卵・卵丘細胞複合体の形態像と卵子の体外成熟能・発生能との相関」
(佐藤千賀子)
「ヒト初期胚における割球大小不同と染色体異常の関係」(佐藤晶子)
「治療終結期の意思決定に対する患者の心理～妊娠に至らず
治療終結を決意した元患者を囲んで～」(上野桂子)
ポスター発表：「ヒト卵丘細胞卵子複合体(COC)の成熟に及ぼす
FSH プライミングの意義」(熊迫陽子)
「治療終結期の意思決定に対する患者の心理
～治療終結に関する質問紙調査から～」(門屋英子)
「男性患者の意識調査～初診時、腹腔鏡検査(ラパロ)付き添い時、
IVF 施行時を比較して～」(恵良郁絵)
- 11.16 第50回 日本不妊学会 Sarah Base ブース展示(熊本) <平松、工藤由>
11.17 日本生殖心理カウンセリング学会理事会(熊本) 参加<上野、院長>
11.17 第36回 大分市医師会医学会 参加<足立小、梅田、渡邊、篠田、関、越光、斉高、
柴田、指山>
発表：「不妊症患者における腹腔鏡検査前後の心理」(河野絢子)
「不妊治療で妊娠に至った患者への質問紙調査
～男性因子の夫を持つ妻の気持ちについて～」(赤嶺佳枝)
- 11.19 日本不妊学会生殖医療指導医認定試験(熊本) <院長>
11.22 おがた泌尿器科医院よりミーティング見学 横山正さん、羽田野純菜さん
11.24 金沢医科大学特別講義(石川)
講義：「生命の始まりの神秘と環境」(院長)
- 11.26 第11回 新患教室 参加者56名 参加<城戸、河野、江藤、指山>
11.26 日本生殖医療標準化機関(JISART)ミーティング(大分) 参加<院長>
11.26 DI 研究会 非配偶者間人工授精で生まれた人の自助グループ設立記念講演会(東京)
参加<佐藤晶、柴田>
- 11.27 第10回 FROM 総会(東京) 参加<佐藤晶、柴田>
11.29 おがた泌尿器科医院よりミーティング見学 園田久世さん、大嶋真由美さん
12.2 不妊治療の保険適用を求める活動一衆議院議員8名、参議院議員1名の先生方に
生殖補助医療に対する補助金の増額を求めた手紙を送付
12.4 生殖エンジニアリング研究会(東京) 参加<那須、大津、院長>
12.6 第83回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
12.8 伊井産婦人科病院(熊本) 中村さやか先生凍結技術見学のためご来院
12.10 第12回 新患教室 参加者56名 参加<長木、篠田、河野、江藤>
12.10 医療法人セント・ルカ忘年会
12.13 防災訓練
12.13 おがた泌尿器科医院よりミーティング見学 小野絃一朗さん、林千秋さん
-

行事一覧(7)

- 12.15 大分県立看護科学大学講義 講師<上野、院長> 参加<平松、工藤由、足立小、佐藤晶、長木、松元、関、門屋、河野、赤嶺、柴田>
講義：「不妊症講座－心理とサポーター－」(上野桂子)
「不妊症講座」(院長)
- 12.17 第104回 体外受精教室 参加者37名 参加<佐藤晶、足立直、恵良>
- 12.23 加藤レディースクリニック忘年会 参加<院長>
- 12.24 クリスマス会
- 12.26 日本産科婦人科学会へ「ヒト未成熟卵におけるゲノムインプリント
獲得についての解析」について倫理審査申請書送付
- 12.27 おがた泌尿器科医院よりミーティング見学 石原千夏さん、岩下由香さん
- 2006 1.10 新年会(セント・ルカ多目的ホール)
- 1.12 九州大学生体防御医学研究所附属病院 有馬隆博先生ご来院・ご指導
- 1.14 第105回 体外受精教室 参加者47名 参加<平井、足立直、恵良、斉高>
- 1.14 第27回 ガーネットサークル OG1名、参加者4名
- 1.16 広島大学大学院生物圏科学研究科(広島)助手 島田昌之先生ご来院・ご指導
- 1.20 九州大学生体防御医学研究所附属病院 有馬隆博先生ご来院・ご指導
- 1.21 第25回『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館)
参加者70名 講師<柴田(副師長)、上野(心理士)、院長> 参加<工藤由、渡邊、
大津、酒井、河野、江藤、篠田、原井、指山>
- 1.22 九州大学生体防御医学研究所附属病院 有馬隆博先生ご来院・ご指導
- 1.23 九州大学生体防御医学研究所附属病院 有馬隆博先生ご来院・ご指導
- 1.24 九州大学生体防御医学研究所附属病院 有馬隆博先生ご来院・ご指導
- 1.25 九州大学生体防御医学研究所附属病院 有馬隆博先生ご来院・ご指導
- 1.27 第4回 生殖・不妊心理カウンセラー養成講座(東京) 参加<上野>
- 1.27 九州大学生体防御医学研究所附属病院 有馬隆博先生ご来院・ご指導
- 1.30 金沢医科大学(石川) 藤井亮太先生施設見学のためご来院
- 1.30 九州大学生体防御医学研究所附属病院 有馬隆博先生ご来院・ご指導
1. 日本産科婦人科学会倫理委員会において、当院より申請した研究テーマ：
「ヒト未成熟卵におけるゲノムインプリント獲得についての解析」が認可される
- 2.2 金沢医科大学(石川) 吉田勝彦先生研究のためご来院
- 2.3 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット
合同イントロダクトリーセミナー(京都) 参加<城戸、大津>
- 2.4 第106回 体外受精教室 参加者37名 参加<斉高、関>
- 2.4 第8回 第3期オリーブの会 参加者3名
- 2.8 東北大学先進医工学研究機構(山形) 阿部宏之先生、横尾正樹先生研究のためご来院
- 2.9 ISO委員会会議 日本LCA 田中繁充氏ご来院
- 2.10 県立福岡大学大学院(福岡) 山口美和さん見学のためご来院
- 2.13 九州大学生体防御医学研究所附属病院 有馬隆博先生ご来院・ご指導
- 2.14 第84回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 2.18 第13回 新患教室 参加者58名 参加<那須、大津、河野、篠田、柴田>
-

行事一覧(8)

- 2.19 第4回 セント・ルカ ミニセミナー
講師 尾畑 やよい先生<東京農業大学 応用生物科学部
バイオサイエンス学科 講師>
「卵子のゲノミックインプリンティング」
講師 寺田 幸弘先生<東北大学 医学部産婦人科 周産母子センター 助教授>
「精子の受精能ヒト受精における精子中心体の機能発現、
その異常と治療の可能性」
- 2.22 第13回 遺伝子診療ボーダレスカンファレンス 参加<佐藤晶、城戸、大津>
2.23 ISO9001 内部監査
2.25 日本生殖医療標準化機関(JISART)ミーティング(東京) 参加<院長>
2.25 第8回 日本女性心身医学会研修会(東京) 参加<原井、指山、院長>
2.28 第89回 大分周産期研究会 参加<平松、工藤由、足立小、梅田、越名、渡邊、
佐藤晶、熊迫、大津、酒井、二宮、松元、篠田、恵良、越光、斉高、原井、柴田、
指山、上野、院長>
発表：「不妊治療で妊娠に至った患者への質問紙調査
～男性因子の夫を持つ妻の気持ちについて～」(赤嶺佳枝)
- 3.1 防火講演会 参加<越名、斉高、原井>
3.1 不妊治療の保険適用を求める署名簿集計 951施設 10137名分の署名が集まる
3.2 九州大学生体防御医学研究所附属病院 有馬隆博先生ご来院・ご指導
3.4 第4回 日研セミナー/第10回 日研シンポジウム(福岡) 参加<平井、熊迫>
講演：「安全なARTをめざして—凍結胚移植を中心に」(院長)
3.7 ISO9001 マネジメントレビュー 日本LCA 田中繁充氏ご来院
3.7 九州大学生体防御医学研究所附属病院 有馬隆博先生ご来院・ご指導
3.8 第4回国会請願のため、森喜朗衆議院議員、片山さつき衆議院議員に国会請願の
為の協力議員依頼配布 片山さつき衆議院議員より快諾の返事あり
3.11 第14回 新患教室 参加者28名 参加<長木、篠田、柴田>
3.12 JISART 審査参加(神戸) 参加<院長>
3.14 第85回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
3.18 第107回 体外受精教室 参加者51名 参加<足立直、斉高>
3.18 九州大学生体防御医学研究所附属病院 有馬隆博先生ご来院・ご指導
3.20 臨床心理士資格認定 <上野桂子>
3.22 メディカルキューブ平井外科産婦人科(福岡) 鷹野和哉さん研修のためご来院

行事一覧(9)

- 3.26 第3回 日本生殖医療心理カウンセリング学会学術集会(東京) 参加<足立小、渡邊、那須、原井、指山、院長> ブース展示<工藤由>
シンポジウム:「自己決定におけるコーディネーティングからカウンセリングへ
～心理士の立場から～」(上野桂子)
発表:「治療終結期の意思決定に対する患者の心理
～治療終結に関する質問紙調査から～」(門屋英子)
「男性患者の不妊治療における意識調査～初診時、腹腔鏡検査(ラパロ)付き添い時、
体外受精(IVF)施行時を比較して～」(恵良郁絵)
「不妊治療で妊娠に至った患者への質問紙調査
～男性因子の夫を持つ妻の気持ちについて～」(赤嶺佳枝)
「40歳以上の不妊症患者を対象としたサポート・グループの取り組み」
(上野桂子 優秀ポスター賞受賞演題)
- 3.26 生殖心理カウンセラー認定資格取得 登録番号 001号<上野桂子>
- 3.27 東北大学先進医工学研究機構(山形) 阿部宏之先生研究のためご来院
- 4.1 新職員 佐藤久子さん(研究室)、桑野紀子さん(看護部)、後藤裕子さん(看護部)
- 4.1 第26回『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・リーガルホテル)
参加者 52名 講師<柴田(副師長)、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生>
参加<工藤由、梅田、越名、佐藤久、大津、桑野、後藤裕、河野、篠田、赤嶺、
指山>
- 4.1 セント・ルカ産婦人科&メディテック・ルカ合同お花見(大分・平和市民公園)
- 4.6 第4回国会請願のため、医療系の代議士17名に国会請願の為の協力議員依頼配布
福島豊衆議院議員、三井辨雄衆議院議員より快諾の返事あり
- 4.7 第23回大分市医師会産婦人科～内分泌・不妊・代謝～懇話会
参加<平松、足立小、梅田、越名、渡邊、佐藤久、那須、佐藤晶、城戸、平井、
熊迫、大津、桑野、後藤裕、酒井、門屋、関、篠田、松元、原井>
「女性の加齢と妊孕性」
(聖マリアンナ医科大学産科婦人科学教室 教授 石塚文平先生)
- 4.9 第63回日本生殖医学会九州支部会(福岡) 参加<越名、渡邊、指山>
発表:「ヒトIVMにおける採卵時末梢血中ホルモン濃度と卵子発生能との関係」
(佐藤千賀子)
「再凍結胚移植の有効性に関する検討」(熊迫陽子)
「体外受精と精子DNA損傷率についての検討」(長木美幸)
「不妊治療終結に対する患者の意識調査」(門屋英子)
「不妊症患者における腹腔鏡検査前後の心理」(河野絢子)
「女性不妊症患者と男性不妊症患者の
非配偶者間生殖補助医療に対する意識の比較」(恵良郁絵)
「不妊治療で妊娠に至った患者への質問紙調査
～男性因子の夫を持つ妻の気持ちについて～」(赤嶺佳枝)
「40歳以上の不妊症患者を対象としたサポート・グループの取り組み
ーグループプロセスと有用性についてー」(上野桂子)
- 4.11 第86回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院

行事一覧(10)

- 4.13 第4回国会請願のため、第3回国会請願で協力議員を引き受けてくださった代議士8名に国会請願の為の協力議員依頼配布 吉良州司衆議院議員、野田聖子衆議院議員、横光克彦衆議院議員、仙谷由人衆議院議員、松本大輔衆議院議員より快諾の返事あり
- 4.14 大阪大学人間科学研究科社会環境学講座(大阪) 竹田恵子さん
「生殖技術提供者の生殖技術利用限界に対する意識調査」
インタビュー調査(5名)のためご来院
- 4.15 第108回 体外受精教室 参加者58名 参加<佐藤久、桑野、後藤裕、足立直、齊高>
- 4.15 衆議院議員 足立信也代議士ご来院 体外受精教室にて保険適用に向けてのお話
- 4.15 第1回 第4期オリーブの会 参加者8名
- 4.15 大阪大学人間科学研究科社会環境学講座(大阪) 竹田恵子さん
「生殖技術提供者の生殖技術利用限界に対する意識調査」
インタビュー調査(2名)のためご来院
- 4.17 大阪大学人間科学研究科社会環境学講座(大阪) 竹田恵子さん
「生殖技術提供者の生殖技術利用限界に対する意識調査」
インタビュー調査(4名)のためご来院
- 4.22 第9回 第3期オリーブの会 参加者5名
- 4.22 東北大学大学院医学系研究科(宮城) 有馬隆博先生ご来院・ご指導
- 4.24 大阪大学人間科学研究科社会環境学講座(大阪) 竹田恵子さん
「生殖技術提供者の生殖技術利用限界に対する意識調査」
インタビュー調査(6名)のためご来院
- 4.27 ISO9001 日本 LCA 田中繁充氏ご来院
- 5.7 第15回 新患教室 参加者59名 参加<佐藤久、平井、桑野、後藤裕、三重野、篠田、指山>
- 5.8 ヒト胎盤幹細胞樹立のための基礎実験(東京) 参加<佐藤晶>
- 5.9 第87回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 5.13 第28回 ガーネットサークル OG1名、参加者5名
- 5.19 情報漏洩問題対策セミナー(福岡) 参加<工藤由>
- 5.20 第109回 体外受精教室 参加者38名 参加<佐藤久、桑野、後藤裕、酒井、足立直、齊高>
- 5.20 第2回 第4期オリーブの会 参加者9名
- 5.22 ヒト胎盤幹細胞樹立のための基礎実験(東京) 参加<佐藤晶>
- 5.24 第2回 セント・ルカ産婦人科倫理委員会
倫理委員：上野徳美先生(大分大学医学部医学科社会心理学 教授)、大塚三千代先生(大分大学医学部附属病院 看護部長)、緒方俊一先生(おがた泌尿器科医院 院長)、指山実千代(セント・ルカ産婦人科 看護師長)、野村陽一先生(日本福音ルーテル大分教会 牧師) (あいうえお順)
- 5.25 越田クリニック(大阪) Sarah Base 導入 <工藤由>

行事一覧(11)

- 5.27 第47回 哺乳動物卵子学会(東京) 参加<院長>
発表：「ヒトIVMにおける採卵時末梢血中ホルモン濃度と卵子発生能との関係」
(佐藤千賀子)
「再凍結胚移植の有効性に関する検討」(熊迫陽子)
「体外受精と精子DNA損傷率についての検討」(長木美幸)
- 5.28 第11回 FROM総会(東京) 参加<院長>
- 5.28 13th International Conference on Prenatal Diagnosis and Therapy(京都)
発表：「Aberrant DNA methylation of imprinted loci in superovulated oocytes」
(佐藤晶子)
「Spontaneous abortion following assisted reproductive
technology treatment」(城戸京子)
「A METHOD OF BIOPSY TO OBTAIN MORE PRECISE RESULT FOR
PREIMPLANTATION GENETIC DIAGNOSIS」(大津英子)
- 6.3 日本生殖医療標準化機関(JISART)ミーティング(東京) 参加<院長>
- 6.4 第4回 JISART シンポジウム(東京) 参加<足立小、門屋、院長>
Discussion: 当院でのヒヤリハットと医療事故防止のための対応および工夫
パネリスト：「当院受付における「リスクマネジメント」報告」(渡邊佳代)
- 6.7 ISO9001 日本LCA 田中繁充氏ご来院
- 6.8 東北大学先進医工学研究機構(山形) 阿部宏之先生研究のためご来院
- 6.10 第16回 新患教室 参加者50名 参加<佐藤久、桑野、後藤裕、河野、篠田、指山>
- 6.12 第4回 国会請願終了
- 6.13 第88回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 6.17 第10回 第3期オリーブの会 参加者3名
- 6.18 The 22nd Annual Meeting of the European Society of
Human Reproduction and Embryology(Prague) 参加<佐藤晶、恵良>
発表：「Aberrant DNA methylation of imprinted loci in superovulated oocytes」
(院長)
- 6.21 東北大学先進医工学研究機構(山形) 阿部宏之先生研究のためご来院
- 6.27 第90回 大分周産期研究会 参加<平松、工藤由、足立小、梅田、渡邊、佐藤久、那須、佐藤晶、佐藤千、城戸、平井、桑野、後藤裕、酒井、工藤美、恵良、越光、二宮、篠田、松元、足立直、上野、指山>
発表：「当院の不妊治療の現状」(院長)
「当院の不妊治療によって生まれた児について」(院長)
- 6.28 日本産科婦人科学会 倫理委員会(東京) 参加<院長>
申請内容：「複数施設における悪性腫瘍未婚女性患者における卵子採取、
ならびに凍結保存の臨床研究」(A-PART日本支部より申請)
- 7.1 第110回 体外受精教室 参加者42名 参加<佐藤久、後藤裕、酒井、斉高>
- 7.1 第3回 第4期オリーブの会 参加者7名
- 7.4 ISO9001 維持審査 NQA-Japan 両角氏、中越氏ご来院
- 7.5 SarahBase デモンストレーション 京野レディースクリニック(宮城) <工藤由>
- 7.7 金沢医科大学産科婦人科学講座(石川) 広崎奈津子先生ご来院予定
-

行事一覧(12)

- 7.8 第27回『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館)
参加者 69名 講師<指山(師長)、上野(臨床心理士)、院長、おがた泌尿器科医院
緒方俊一先生> 参加<工藤由、足立小、渡邊、佐藤久、平井、桑野、後藤裕、
河野、篠田、門屋>
- 7.12 大分県立看護科学大学講義 講師<院長> 参加<平松、工藤由、佐藤久、佐藤晶、
桑野、後藤裕、工藤美、足立直、恵良、原井>
講義:「不妊症講座」(院長)
- 7.15 第5回 生殖バイオロジー東京シンポジウム(東京) 参加<那須、熊迫、院長>
7.15 生殖心理カウンセラー事例検討会(東京) 参加<上野>
- 7.17 A-PART 日本支部学術講演会 2006(東京) 参加<那須、熊迫、上野、院長>
- 7.18 防災訓練
- 7.25 第89回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 7.29 第111回 体外受精教室
- 8.5 第4回 第4期オリーブの会開催予定
- 8.5 無精子症と診断されたカップルに寄り添うケア(東京) 参加予定<工藤美、恵良、
上野>
- 8.5 AID 討論会(東京) 参加予定<工藤美、恵良、上野、院長>
- 8.26 第11回 第3期オリーブの会開催予定
- 8.27 第13回 セント・ルカセミナー開催予定
講師 阿部 宏之先生<東北大学先進医工学研究機構助教授、
山形大学大学院理工学研究科客員教授>
「受精卵呼吸測定装置の開発と生殖補助医療への応用」
講師 荒木 康久先生<高度生殖医療技術研究所所長>
「受精障害克服の試み—卵子活性化によるレスキュー」
講師 見尾 保幸 先生 (MIO FERTILITY CLINIC 院長)
「ヒト初期胚発生過程の動的解析に基づく新知見」
講師 森 崇英先生<醍醐渡辺クリニック不妊センター長、京都大学名誉教授>
「生殖医療の倫理」
- 9.2 JISART 倫理委員会(東京) 参加予定<上野>
- 9.20 JISART 看護師研修参加予定
- 9.21 第24回 日本受精着床学会総会・学術講演会(軽井沢)参加予定
- 10.22 25th Annual Scientific Meeting of the Fertility Society of Australia 参加予定
- 11.9 第51回 日本不妊学会総会・学術講演会(大阪)参加予定

論文一覧

- 2005 「Successful pregnancy after the vitrification of zygotes using commercial vitrification solutions and conventional straw to protect from infections in the liquid of nitrogen」
(熊迫陽子) J Assist Reprod Genet Vol.22, No.1 January 2005
- 「体外受精後未受精卵であった前核形成阻害の原因解析」(公文麻美)
日本受精着床学会雑誌 (投稿中)
- 2006 「Developmentally retarded frozen blastocysts can be rescued by synchronizing culture prior to transfer」(院長) Reprod Biomed Online Vol.12, No.5 May 2006
- 「不妊症患者の心理的ストレスとサポートグループ介入の効果」(上野桂子)
臨床心理学 (投稿中)
- 「ウレアプラズマ感染が生殖補助医療に及ぼす影響」(長木美幸)
日本受精着床学会雑誌 (2007年3月掲載予定)
- 「Aberrant DNA methylation of imprinted loci in superovulated oocytes」(佐藤晶子)
Human Reproduction (投稿中)
- 「Assessment of human oocytes quality by cumulus cell morphology and circulating hormone profile」(佐藤千賀子) Reprod Biomed Online (投稿中)

著書(共著)一覧

- 2005 「赤ちゃんがやってくる はやく気づいて！不妊症」(院長)(有限会社メディテック・ルカ)
- 2006 「ART 治療の経済的負担と公的支援」(院長)『コメディカル ART マニュアル』(永井書店)
- 「生殖医療のグループカウンセリング」「加齢患者に対するカウンセリング」(上野桂子)
『コメディカル ART マニュアル』(永井書店)
- 「胚盤胞培養」(公文麻美)『コメディカル ART マニュアル』(永井書店)
- 「胚の凍結保存法」(院長)『臨床婦人科産科』(医学書院)(掲載予定)
- 「高齢不妊女性治療の工夫ー私はこのようにして成功率向上をめざしているー」(院長)
『臨床婦人科産科』(医学書院)(60 巻 11 号掲載予定)
- 「着床前診断の有用性」(大津英子)『産婦人科の世界』(Vol.58, No.6 June 2006)

セント・ルカ産婦人科主催講演および活動説明

セント・ルカセミナー 開催頻度：1回/1年

セント・ルカ産婦人科開院記念行事として、毎年8月に行っている。

国内外から、著名な先生方をお招きして、当院多目的ホールにてシンポジウムを行っている。

セミナー前日には、懇親会も行われ、医師、エンブリオロジストの貴重な情報交換の場として役立っている。セミナー開催にあたって、企画・立案・運営までを全て当院で行っている。

『赤ちゃん～今ならきつと授かる～』講座 開催頻度：1回/3ヵ月

(不妊検査・治療についての説明会。主として初診間もない患者さんが対象)

2000年までは、2年毎の開催であったが、広く不妊治療を知ってもらう目的で、2001年からは3ヶ月に1回市内のホテルで行い、参加者の方が、ゆったり、リラックスしていただけるように、コーヒーとケーキを用意している。パソコンプロジェクターを使用し1時間程詳しく院長がお話をした後、不妊治療に協力的な泌尿器科の先生に男性不妊の治療説明などをしていただき、2005年からは心理士による心のお話、2006年からは看護師による治療内容等のお話も行っている。次に当院OG(当院で治療後赤ちゃんを授かり出産へと至った方)のお話を1時間程聞く事ができる。OG自身の治療歴から始まり、治療中に立ちあがる大きな壁をどうやって越えたのか、心の中で日々大きくなる悩みやストレスに対する対処の仕方など、患者さんの気持ちで参加者にお話ができるため、好評である。

ガーネットサークル 開催頻度：1回/3ヵ月

(ART中の患者さんに対するART経験者によるアドバイスの会)

当院で10回前後体外受精を行い、出産へと至った方をお願いをして、現在体外受精を受けられている患者さん、これから受けられる患者さんとの交流の場を設けている。体外受精に対する精神的なストレスの発散場所として、経験者の話を聞く事により、患者さんの視野を広げ、悩んでいるのは自分ひとりではないのだということの再認識もできる貴重な会である。

ガーネットサークルの由来は、ガーネットの和名「ざくろ石」からきている。ざくろは風水では子宝に恵まれるという意味を持っているので、全ての患者さんが子宝に恵まれる事を祈って、ガーネットサークルと名づけた。

オリーブの会(第1～4期) 開催頻度：1回/1ヵ月

(比較的高齢者の患者さんの集い)

治療を進めていく上で、焦りやストレスを感じている不妊患者さんが多い。その上、治療に対するストレスだけでなく年齢的な焦りと直面した患者さんは近年増加している。このような患者さんへのサポートの必要性を感じ立ち上げられた会である。対象年齢を40歳以上とし、心理士と看護師を交えてお茶を楽しみながらリラックスした自由な話し合いの場を設けている。

治療を終結した方のお話 開催頻度：1回/1年

(比較的高齢者の患者さんの集い)

以前不妊治療をしていた方(現在はご夫婦だけの生活を選ばれた)に、現在、不妊治療をしている患者さんに対して、当時の治療や現在の生活についてのお話をしていただく会。

体外受精教室 開催頻度：1回/1ヵ月(毎月第4土曜日)

(ARTにすすむ患者さんへの説明会)

初めて体外受精を受けられる患者さん向けに、体外受精治療の過程や、体外受精前後の体の変化など、院長が3-4時間かけて分かりやすく説明している。パソコンプロジェクターを使用し、写真や画像を多用しているため、より身近に、より分かり易い内容となっている。ほとんどの患者さんがご夫婦で参加されるため、夫婦とも同じラインで体外受精について考える事ができ、その後の治療にも役立っている。

新患教室 開催頻度：1回/1ヵ月

(主として初診から1ヶ月以内の患者さんが対象)

2004年5月までは、3ヵ月に1度市内のホテルで行っていた「赤ちゃん～今ならきつと授かる～」講座を、さらに気軽に参加でき、広く不妊治療を知ってもらうという目的で2004年6月からは毎月開催している。当院の多目的ホールにて、院長が3時間程初診時の検査から体外受精までを詳しく説明している。2006年からは看護師によるお話も行っている。早い時期に夫婦で参加する為(30~40名)、治療の理解が深まり、その後の治療にも役立っている。

新患オリエンテーション 開催頻度：初診時

新患さんの検査、診察終了後に主任クラスの看護師が行っている。1時間程かけて、写真や資料を使い患者さんへ病状の説明、今後の治療のすすみ方や費用面での説明をしている。また、診察時に患者さんが言えなかった訴えを受け止め、心配していることの相談などを行っている。

なんでも相談 開催頻度：毎週土曜日午後(予約制)

(主任クラスの看護師による相談)

不妊治療に従事する者として、不妊という悩みを抱えた患者さんを支える為に教育された看護スタッフにより行われている。患者さんが抱えているストレスや悩み、治療についての質問など、なんでも相談できる場として設けている。

院長相談 開催頻度：毎週月・水・金の18:00~(予約制)

普段の診療で聞けなかった事や、なんとなく疑問に思っていることを、他の患者さんを気にすることなく、ゆっくりと院長に相談できる。理解できるまで、分かりやすく説明が聞けるので、患者さんに好評である。

心理専門相談室 開催頻度：毎週火・金・土の午前中（予約制）

2001年より、専門の心理士による、きめ細やかな相談業務が行われている。患者さんが抱える深刻な悩みを、幅広く受け止められるよう努めている。今後、さらなる需要が求められるであろう。

院内研修 開催頻度：毎週火曜日午後

毎週火曜日の午後、職員全員を集めての院内研修およびミーティングを行っている。

研究室・検査室からは、研究結果の発表、海外論文詳読、各部署より医療過誤につながりうる可能性のミスを報告し、今後の為に協議する「ハツとしたこと」報告、また、その週に治療を受ける患者さんについて、治療方針を話し合うなど、4時間程のミーティングを行っている。このミーティングにより、全職員の意思統一が図れ、患者さんのケアにも役立っている。ミーティングの最後には「一人一言」の時間を設け、個人個人の考えを述べる機会を作っている。

研究室朝ミーティング 開催頻度：毎朝 20分程

研究室の職員と院長とで培養中の胚の観察結果報告や、当日行われる採卵予定患者さんの検査結果報告、胚移植予定者報告を行っている。また、個人が担当している研究の途中経過報告や新しい研究の提案など活発な意見交換も行われている。

研究室ミーティング 開催頻度：月2回午後半日

研究室の職員全員で、日常業務や各々の研究テーマ、基礎知識に関する勉強会を行ったり、SarahBaseを用いたデータ整理に関する検討を行っている。

その他 開催頻度：随時

外来相談係（看護部）

患者さんからの質問に答えると共に、説明も行う。

腹腔鏡検査前の説明（看護部）

腹腔鏡検査目的で入院される方に説明を行う。

開腹手術前の説明（看護部）

開腹手術目的で入院される方に説明を行う。

手術前説明（院長）

手術内容と進め方について説明を行う。

手術後説明（院長）

手術時のビデオを見ながら、手術や予後の説明を行う。

ART オリエンテーション（看護部）

体外受精に入る前の患者さんに体外受精の説明を行う。

ART 結果説明(1)（ラボ専任スタッフ）

体外受精・胚移植直前に、培養した胚の説明等を行う。

ART 結果説明(2)（看護部）

妊娠反応のチェック時に、結果説明と共に行う。

ART 結果説明(3)（ラボ専任スタッフ）

体外受精後、移植できなかった場合にその理由等を説明する。

体外受精に関する相談（ラボ専任スタッフ）

卵子・精子・胚に関する質問を随時受け付けている。

スタッフ配置

院長

宇津宮隆史

医師

河邊史子、伊東裕子

研究室・検査室

大津英子、長木美幸、熊迫陽子、平井香里、城戸京子、
佐藤千賀子、佐藤晶子、那須 恵、佐藤久子

看護部

指山実千代、柴田令子、原井淳子、赤嶺佳枝、越光直子、江藤貴美、
恵良郁絵、河野絢子、工藤美子、門屋英子、相良聖子、斉高美穂、
二宮 睦、関こずえ、松元恵利子、篠田多加子、足立直美、三重野直美
酒井 操、桑野紀子、後藤裕子

心理専門相談室

上野桂子（臨床心理士・生殖心理カウンセラー）

総務部

宇津宮富美子

事務部

渡邊佳代、越名久美、梅田麻衣、足立小百合

情報処理室

工藤由香、平松里美

厨房

後藤江美子、矢野千恵美、首藤清子

病院概要

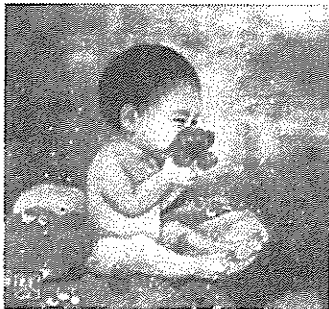
名 称	医療法人セント・ルカ セント・ルカ産婦人科 セント・ルカ生殖医療研究所
開設年月日	1992年6月3日
住 所	〒870-0947 大分市津守富岡5組 TEL 097-568-6060 FAX 097-568-6299 E-mail st-luke@oct-net.ne.jp http://www.oct-net.ne.jp/~st-luke/ http://www.oct-net.ne.jp/~st-luke/imode (携帯電話用)
許可病床数	14床
職 員 数	総数 44名 常勤医 1名 臨床心理士 1名 非常勤医 2名 総務部 1名 (兼任) 研究室 6名 事務部 4名 検査室 3名 情報処理室 2名 看護師 13名 調理士 3名 准看護師 8名 栄養士 1名
診療時間	月、水、金： 8:30～11:30 17:00～18:30 (要予約) 火、木、土： 8:30～11:30 (祭日を除く)

<本年報の集計も NEW Sarah Base を用いました>

NEW

Sarah Base

Medical & Statistical Data Base Ver. 2.0
Windows98/Me/2000/XP



臨床データ管理・医学統計解析ソフト
さらに機能が充実しました。

日々の診療で得られたデータを整理し、保管し、
必要に応じて統計処理し、学会に発表する。
手間を掛けずにデータを蓄積し、手間を掛けずに
統計処理まで行う。そんな優れたものがこのひと箱に・・・
頼りになる偉大な味方です。

・製品構成 SarahBase診療支援/データ抽出/統計解析/項目管理作成ツール/
入力画面作成ツール/検査結果報告取込(オプション)/
レセコン頭書情報取込(オプション) レセコン診療情報取込(オプション)
生殖医学臨床実施成績一覧表の集計・印刷(オプション)/
備品類メンテナンスアラーム(オプション)
新機能:データ入力チェック・簡易集計等のマクロ登録ツール(仮称)
・動作環境CPU: Pentium II 350MHz以上(推奨Pentium III 450MHzクラス以上)
OS: Windows 98/Me/2000/XP メモリ: 128MB以上 ハードディスク空き容量: 100MB以上

(有)メディテック・ルカ 〒870-0947 大分市津守富岡5組セント・ルカ産婦人科内
TEL/FAX (097)554-8567

E-mail mt-luke@oct-net.ne.jp
<http://www.oct-net.ne.jp/~st-luke>

2005年度年報

2006年8月 発行

発 行： 医療法人セント・ルカ産婦人科
セント・ルカ生殖医療研究所
編 集： 宇津宮 隆史
〒870-0947 大分市津守富岡5組
Tel 097-568-6060
Fax 097-568-6299
E-mail st-luke@oct-net.ne.jp
<http://www.oct-net.ne.jp/~st-luke/>